

Secure Terminal

CE(Windows CE)版

ユーザーズ・ガイド

Version 2.0.1

一般的な注意

1. 本書の内容の一部または全部の無断転載・無断複写を禁止します。
2. 本書の内容は予告無しに変更することがあります。
3. 運用した結果の影響につきましては、本書の内容に関わらず、責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また、本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権の諸問題については、当社は一切その責任を負うことはできません。
5. 製品内部の改造が行われた場合、当社は一切責任を負うことはできません。

商標について

本書中、以下は各社の商標または登録商標です。

Microsoft[®]、Windows[®]、Windows CE[®]はMicrosoft Corporationの登録商標です。
Citrix[®]、ICA[®]、Citrix Presentation Server[®]はCitrix Systems, Incの登録商標です。
IBMはIBM Corporationの米国およびその他の国における商標です。

その他、本資料に記載の各名称は一般に各社の商標または登録商標です。

第 2.0.1 版 2009 年 1 月



このマニュアルは、製品の改良その他により適宜改訂されます。
本ソフトウェア、およびマニュアルの一部、または全部を無断で複製することはできません。

©JBアドバンス・テクノロジー株式会社 2009

はじめに

この度は、APTi *SecureTerminal* (CE 版) をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
本マニュアルは、APTi *SecureTerminal* (CE 版) 用のものです。当社から新たなマニュアルが提供されるまでは、本書が適用されます。

本マニュアルが適用される機種・モデルについては、当社のホームページのカタログ・ダウンロード・ページを参照してください。(http://www.apti.co.jp/support/download_catalog.html)

なお、本書内ではAPTi *SecureTerminal* (CE 版) は以降、クライアント又は本製品と表記します。

本書が適用される機種は以下の通りです。

- ・ *SecureTerminal T500E* (ファームウェアバージョン E5515J.1 以降)
- ・ *SecureTerminal T300E* (ファームウェアバージョン E5515J.1 以降)

注意：

SecureTerminal T500E と *SecureTerminal T300E* とではハードウェアの違いにより、サポートされる機能の一部に違いがあります。機種により違いのある項目については、当マニュアルの該当する項目の説明中に具体的な違いが明記されていますので、参照してください。

目次

1 章 概要	6
1.1 製品概要	6
2 章 端末オペレーション	7
2.1 端末の初期セットアップ	7
2.2 ターミナルマネージャー	11
2.2.1 接続	12
2.2.2 構成	13
2.3 接続ナビゲーション/スタートアップ	15
2.3.1 ショートカットキー	15
2.3.2 端末起動モード	16
2.3.3 セットアップ時のエラー	19
3 章 ICA クライアント設定	20
3.1 ネットワーク接続	20
3.1.1 Citrix サーバー / 公開アプリケーションの選択	20
3.1.2 サーバーの場所	21
3.1.3 ICA コネクション名の指定	23
3.1.4 アプリケーションの指定	23
3.1.5 ログオン情報の指定	24
3.1.6 ウィンドウのオプションの選択	24
3.1.7 圧縮、暗号化、サウンドのサポート	25
3.1.8 ファイアウォールの設定	27
3.1.9 SSL/TLS を使用する場合	28
3.1.10 既存の接続を編集	28
4 章 RDP クライアント設定	29
5 章 端末設定	31
5.1 一般	32
5.2 入力	33
5.3 画面	34
5.4 ネットワーク	35
5.4.1 詳細設定(D)	36
5.4.2 DHCP 設定(V)	36
5.4.3 SNMP 設定(S)	37
5.4.4 ICA クライアント設定(I)	38
5.5 アップグレード	41
5.6 デバイス	42
5.6.1 LPD	44
5.6.2 NetCOM	45
5.6.3 NetClock	46
5.6.4 Ping	46
5.6.5 インターネットオプション	47
5.6.6 タッチスクリーン	51
5.6.7 デスクトップ	54
5.6.8 ネットワークとダイアルアップ接続	55
5.6.9 ボリュームとサウンド	61
5.6.10 リモートディスプレイ	61

5.6.11 外字	63
5.6.12 日付と時間	64
5.7 セキュリティ	65
5.8 システム	69
5.9 バージョン	70
6章 ファームウェアアップグレード	71
6.1 FTP サーバーの準備	71
6.2 アップグレード手順	72
6.3 SNMP Administrator 手順	74

1 章 概要

1.1 製品概要

Secure Terminal (CE 版) は、Microsoft Windows CE 搭載のシンクライアント端末です。Microsoft RDP(Remote Desktop Protocol)、Microsoft Internet Explorer、Citrix ICA クライアント、Go-Global クライアント、IBM ホストエミュレータ(TN5250,TN3270)などの複数のクライアントソフトウェアが標準で組み込まれています。

このユーザース・ガイドでは、*Secure Terminal* (CE 版) 共通の使用方法について説明しています。

個々の製品におけるハードウェアの概要、各部名称などについては、各製品同梱のクイックスタートガイドを参照してください。また、このユーザース・ガイドでは、IBM ホストエミュレータを除くクライアントソフトウェアについて説明しています。

IBM ホストエミュレータに関しては、次のホストエミュレータのユーザース・ガイドを参照してください。

IBM ホストエミュレータ：

TermPro をご使用の場合：「*Secure Terminal* :TermPro ユーザース・ガイド」

これらのユーザース・ガイドは、当社ホームページからダウンロードできます。

2 章 端末オペレーション

2.1 端末の初期セットアップ

端末の電源を初めて入れた時、セットアップウィザードを使用して端末プロパティの初期セットアップを行うことができます。以下にセットアップウィザードのダイアログボックスを示します。なお、このウィザードは端末を初期状態にリセットした場合にも起動します。

[Welcome] ダイアログボックス



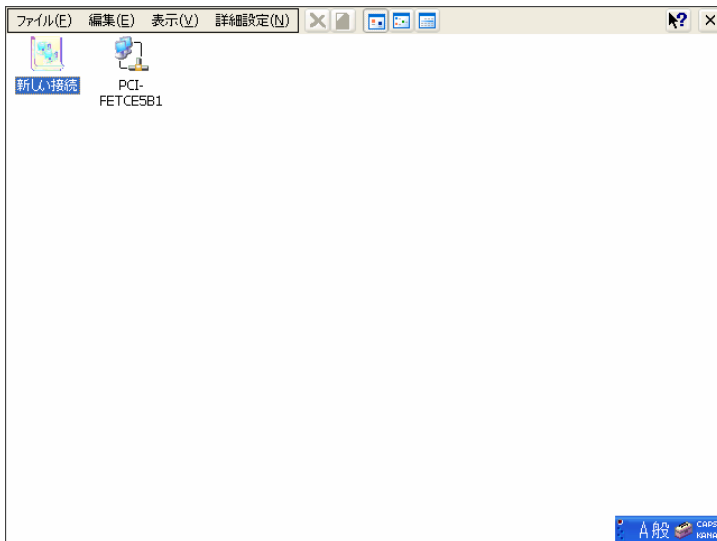
このダイアログボックスは製品情報を表示しています。最上部に 15 秒間のカウントダウンを表示しますので、[次へ(N)] をクリックして進むか、カウントダウンが終わるのを待ちます。Esc キーを押すと、初期設定 (Network DHCP 有効、表示解像度 800x600 @60Hz、セキュリティなし、等) の状態で [ターミナルマネージャー] ダイアログボックスに進みます (2.2 項参照)。

[IP アドレスの設定] ダイアログボックス



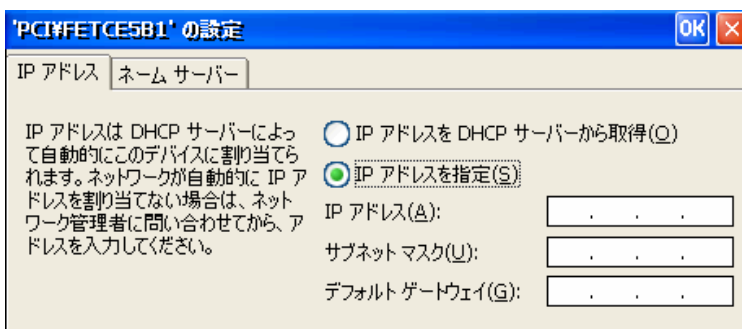
本製品は DHCP サーバーから自動的に IP アドレスを取得します。DHCP サーバーを使用せず、固定 IP を割り当てる場合は [ネットワーク設定(P)] をクリックしてください。

固定 IP アドレスを使用 (その 1)



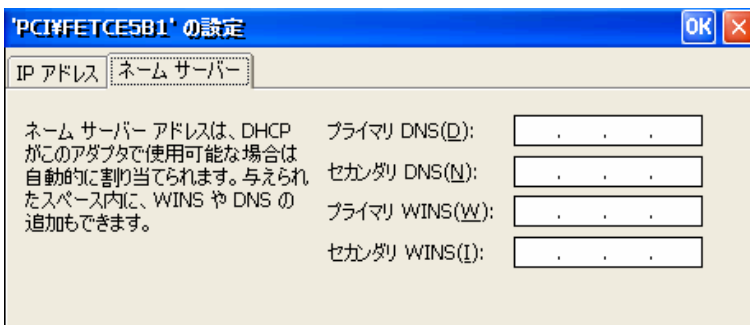
接続名 PCI-XXXXXXXX をダブルクリックすると IP アドレスとネームサーバーの設定画面を表示します。

固定 IP アドレスを使用 (その 2)



DHCP サーバーを使用せずに IP アドレスを指定する場合は『IP アドレスを指定(S)』にチェックが入っていることを確認し、表示欄に要求のネットワーク情報を入力してください。

固定 IP アドレスを使用 (その 3)



DNS または WINS サービスを利用する場合は、ネームサーバーを選択し、端末のネームリゾリューション (名前解決) に要求情報を入力してください。

[画面解像度とリフレッシュレート] ダイアログボックス



解像度と画面の色をスクロールリストから選択します。デフォルト設定は解像度が 800x600 @60Hz、画面の色は True Color(16bit)です。[テスト(e)] (注 1) をクリックし一時的に選択した解像度でご使用のモニタが正しく表示されることを確認してください。

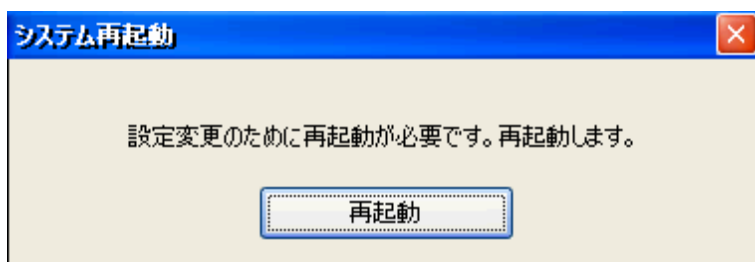
注 1 : *Secure Terminal T300E* では [テスト(e)] ボタンは使用できません。

[終了] ダイアログボックス



[終了] をクリックして指定の設定を適用します。セットアップウィザードが終了します。

[システム再起動]ダイアログボックス



端末を再起動し変更を有効にする必要があります。[再起動]をクリックして端末の初期セットアップを完了します。

設定を変更するには、ターミナルマネージャー画面(2.2項参照)でF2キーを押します。設定画面と手順は第5章に記載しています。

2.2 ターミナルマネージャー

ターミナルマネージャーによりネットワーク接続を管理することができます。すべての接続には名前が付けられ、接続名により参照します。複数の接続を作成し、同時に接続にすることができます。

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックス (接続)



端末の初期セットアップが終わると、[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスを表示します。セキュリティ設定が有効になっていない限り、端末の電源を入れた後、最初にこの画面が表示されます。初期セットアップ時は、接続は何も表示されませんが、構成タブにて接続を追加した場合、接続はアルファベット順に並びます。

有効になっている接続表示から Alt + Ctrl + End キーを押すと、[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスに戻ります。

F2 キーを押して端末設定の表示、または変更を行います。端末設定画面の説明については第5章を参照してください。

2.2.1 接続

接続プロパティシート（上記参照）は構成したすべての接続をリストアップし、そのタイプおよびステータスを表示します。

タイプ：

- ・ RDP(Microsoft リモート デスクトップ クライアント)
- ・ ICA(Citrix ICA クライアント)
- ・ EMU(IBM ホストエミュレータ)
- ・ Web(Microsoft Internet Explorer)
- ・ RXP(GO-Global Client)

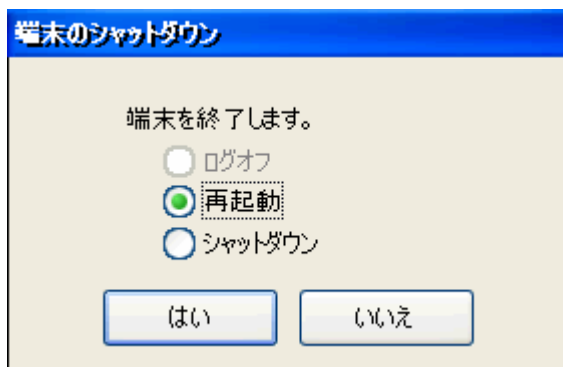
ステータス：

接続中のセッションなら「動作中」。接続中でない場合は空白です。

任意の接続名をリストから選択し [接続(C)] をクリックするか、接続名をダブルクリックして接続します。動作中のセッションの場合は、 [終了(E)] をクリックしてその接続を終了することができます。

[シャットダウン(S)] をクリックして、端末をログオフ、または端末を再起動することができます。動作中の接続がある場合、エラーメッセージが表示されますので、全ての接続を終了してからシャットダウンしてください。

[端末のシャットダウン] ダイアログボックス



ログオフ： この機能はセキュリティ機能が有効時に利用できます。

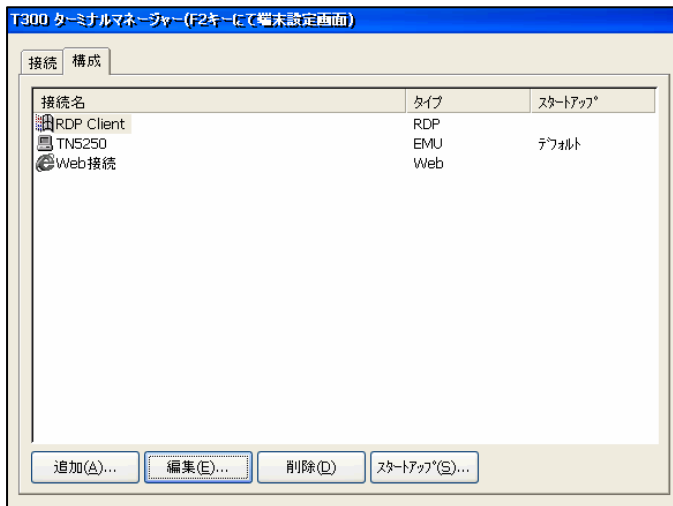
再起動： 初期値はこの設定になっています。

シャットダウン： 端末をシャットダウンします。

2.2.2 構成

構成プロパティシートにより新たな接続を作成したり、既存の接続を編集および削除したりすることができます。どの接続を起動時に自動的に接続するかを指定することも可能です。

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックス (構成)



タイプ:

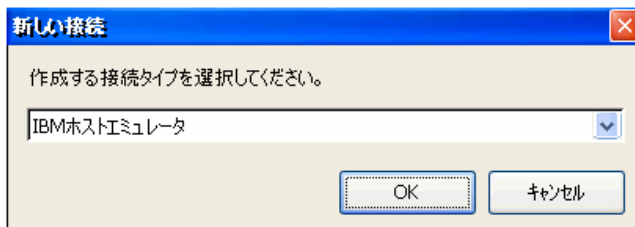
- RDP(Microsoft リモート デスクトップ クライアント)
- ICA(Citrix ICA クライアント)
- EMU(IBM ホストエミュレータ)
- Web(Microsoft Internet Explorer)
- RXP(GO-Global Client)

スタートアップ:

デフォルトセッションの場合は「デフォルト」、自動起動の場合は「自動起動」、デフォルトと自動起動の両方の場合「自動起動(デフォルト)」および特別の状態でない場合は空白で表示されます。

[追加] をクリックして、新規の接続を設定します。

[新しい接続] ダイアログボックス



作成する接続のタイプを以下から選択します。

Citrix ICA クライアント (3章)

GO-Global Client (4章)

Microsoft Internet Explorer

Microsoft リモート デスクトップ クライアント (5章)

IBM ホストエミュレータ (*Secure Terminal* TermPro ユーザーズガイドを参照)

[編集(E)] をクリックし、接続リスト内の選択した接続を編集します。

[削除(D)] をクリックし、接続リスト内の選択した項目を削除します。

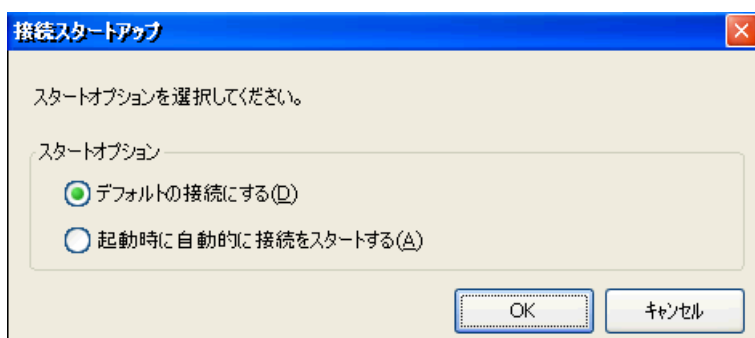
[削除確認] ダイアログボックス



[はい(Y)] をクリックすると、選択した接続を削除します。

[スタートアップ(S)] をクリックし、選択した接続のスタートオプションを選択します。

[接続スタートアップ] ダイアログボックス



デフォルトの接続にする(D) :

デフォルト接続とは最初に表示または選択する接続のことです。1つの接続のみがデフォルトとして設定可能です。また、ショートカットキー(Ctrl+Alt+Home)を押すとデフォルトの接続画面に移行します。スタートアップ欄のステータスには「デフォルト」と表示されます。

起動時に自動的に接続をスタートする(A) :

選択した接続を自動的に起動します。ターミナルマネージャーで [接続(C)] をクリックする必要はありません。スタートアップ欄のステータスには「自動起動」と表示します。複数の接続を自動的に開始することができます。

ある接続をスタートアップとデフォルトの両方に設定するには、最初にデフォルトの設定をしてから、自動起動を設定します。

2.3 接続ナビゲーション / スタートアップ

2.3.1 ショートカットキー

以下のショートカットキーにより動作中の接続の移動、ターミナルマネージャーへの復帰、端末設定画面の表示などができます。

Alt + Ctrl + End :

接続画面から [ターミナルマネージャー] ダイアログボックス (または接続ボタン、接続タスクバー) に戻ります。

Alt + Ctrl + ↑ :

前の動作中の接続に切り替えます。(他の動作中の接続がない場合は切り替わりません。)

Alt + Ctrl + ↓ :

次の動作中の接続に切り替えます。(他の動作中の接続がない場合は切り替わりません。)

Alt + Ctrl + Home :

デフォルト接続に移ります。

注意：左右の Alt キーはエミュレーションセッションで機能が異なります。左の Alt キーは Windows 機能用で、例えば Alt(左)+E は編集メニュー・オプションを表示します。右の Alt キーは特殊エミュレーション機能用予備で、例えば Alt(右)+E はユーロ記号を作り出します。

F2 キー :

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスで F2 キーを押すと、[端末設定] ダイアログボックスを呼び出します。

端末設定を工場出荷時に戻す :

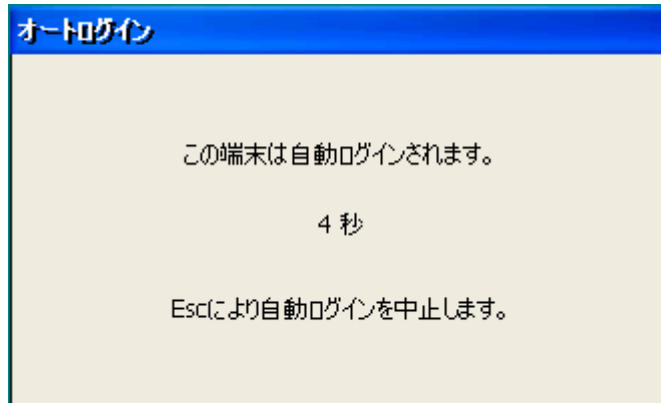
- [端末設定] ダイアログボックスの「一般」タブから、「端末設定を工場出荷時の設定の戻す(R)」にチェックします。
- SNMP Administrator 管理ツールを使用してリセットしたい端末を選択し、右クリックで表示されるメニューから、「Reset to Default」を選択します。

2.3.2 端末起動モード

端末を設定し電源を入れると、ターミナルマネージャー、接続ボタン、または接続タスクバーで操作を開始します。これらの起動モードは接続設定のセキュリティタブで選択します。詳細は第5章7項を参照してください。

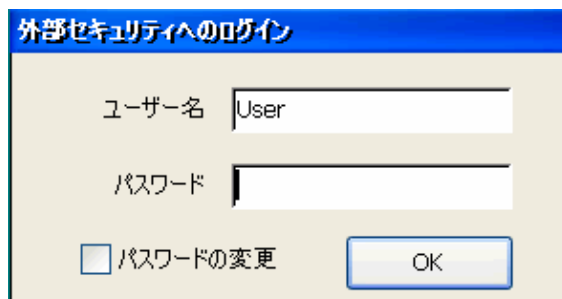
2.3.2.1 セキュリティ ログイン

セキュリティが有効となり自動ログインを選択していると、以下の画面が表示されます。

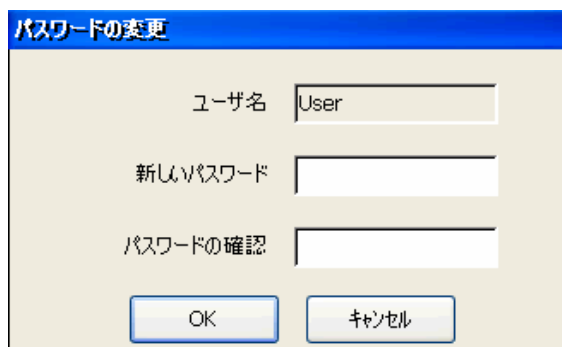


このボックスが表示している間に Esc キーを押すと、管理者または別のユーザとして（別の接続）としてログインを許可します。

自動ログインが有効になっていない場合、または Esc キーを自動ログイン表示中に押した場合は、[外部セキュリティへのログイン]ダイアログボックスが表示されます。有効なユーザ名及びパスワードを入力して[OK]にてログインしてください。



ユーザアカウントがセキュリティ設定のユーザアカウント設定により[パスワード変更可]に設定されている場合は[パスワードの変更]のチェックボックスが表示されます。[パスワードの変更]を有効にして[OK]をクリックすると[パスワードの変更]ダイアログボックスが表示されます。



新しいパスワードと確認用のパスワードを入力して[OK]をクリックしてください。

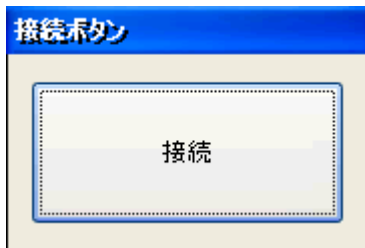
2.3.2.2 ターミナルマネージャーの起動

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスを表示します。
自動起動を設定している場合、指定された接続が自動的に起動されます。
自動起動を設定していない場合は、任意の接続を選択し起動する必要があります。

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスでF2キーを押して端末設定を変更します。
セキュリティが有効で管理者としてサインオンしていない場合は、一般、入力、画面、デバイス、システム、バージョンの各タブのみが利用可能となります。

2.3.2.3 接続ボタン

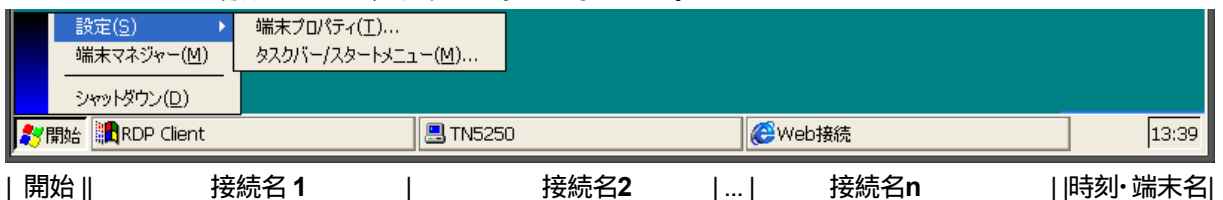
[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスの代わりに接続ボタンを表示させることができます。設定した接続を開始するには、[接続]をクリックするか、またはEnterキーを押します。有効な接続からCtrl+Alt+Endと押すとボタン表示に戻ります。



『接続ボタンのみ表示』された状態から端末設定画面に移動する方法：
接続ボタンとダイアログの隙間を繰り返しクリックすると端末設定画面が表示されます。セキュリティが有効で管理者としてサインオンしていない場合は、一般、入力、画面、デバイス、システム、バージョンの各タブのみが利用可能となります。

2.3.2.4 接続タスクバー

接続タスクバーはWindows OSのようなタスクバーで、すべての接続名を表示し、端末名を任意で表示します。[開始] ボタンがタスクバーの左側に表示され、このバーからユーザは[端末プロパティ(T)]、[端末マネージャー(M)]とタスクバー設定(オプション)および[シャットダウン(d)]にアクセス可能となります。
端末設定のセキュリティタブにある『接続タスクバーを表示する(B)』にチェックを入れます。
接続ボタンと接続タスクバーはどちらか一方のみ選択することができます。
接続タスクバーはマウスカーソルを画面の下部を通り越して移動させると表示します。接続タスクバーが有効になると、以下のように表示します。



接続名の背景は次のような接続状態を示します。
ライトグレー 非動作中
ダークグレー 動作中、ただし表示していない
ダークブルー 動作中で現在表示中
白 接続無効、環境設定を編集
接続名をクリックし接続もしくは表示するか(動作中でない場合)、またはその接続を表示します(すでに動作中の場合)。

2.3.2.5 スタートオプション

設定(S) :

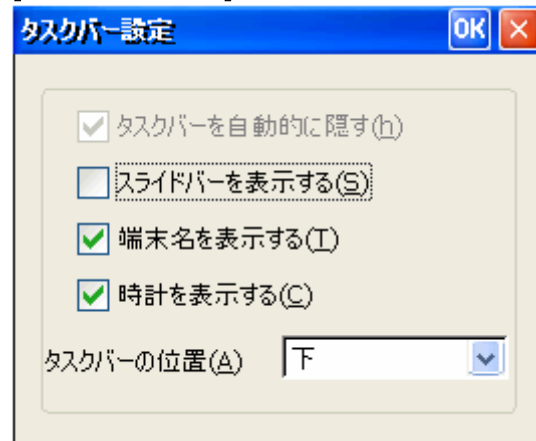
端末プロパティ(T)...

端末設定ダイアログを表示します。

タスクバー / スタートメニュー(M)...

タスクバー設定ダイアログを表示します。

[タスクバー設定]ダイアログボックス



タスクバーを自動的に隠す(h) :

タスクバーはマウスカーソルが表示の下部を移動する時のみ表示します。チェックを OFF にすると、タスクバーは画面の下部もしくは上部で固定されます。この設定を変更するには、すべての接続を終了する必要があります。

スライダーを表示する(S) :

タスクバーが「自動的に隠す」状態のときにスクロールして表示されます。

端末名を表示する(T) :

端末名をタスクバーの右に表示します。

時計を表示する(C) :

時刻をタスクバーの右に表示します。

タスクバーの位置(A) :

タスクバーの表示位置を『下』と『上』の2つから選択します。

端末マネージャー(M) :

ターミナルマネージャー画面を表示します。

シャットダウン(d) :

ログオフ

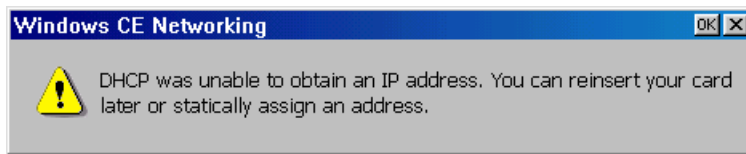
再起動

シャットダウン

注意 : セキュリティが有効でユーザが管理者以外でサインオンすると、[開始]をクリックした時、『シャットダウン』と『端末プロパティ』のみを表示します。

2.3.3 セットアップ時のエラー

DHCP エラーメッセージボックス



このメッセージボックスが表示されたら、DHCPサーバーがネットワーク上で正しく機能しているか確認してください。DHCPがすでに端末へネットワークパラメータを提供している場合は、それは保存しており、DHCPが故障した場合に再使用します。

DHCPサーバーが利用できない場合は、静的IPアドレスを割り当てます。

3章 ICA クライアント設定

ICA は Citrix Presentation Server に接続するためのネットワークプロトコルです。本章では Citrix Presentation Server に対するネットワークのセットアップ方法について記述します。Citrix ICA クライアントを [新しい接続] ダイアログボックスから選択します。

以下では Citrix Presentation Server は Citrix サーバーもしくはサーバーと記述します。

3.1 ネットワーク接続

ネットワーク上の Citrix サーバーを検索している間は以下のメッセージを表示します。

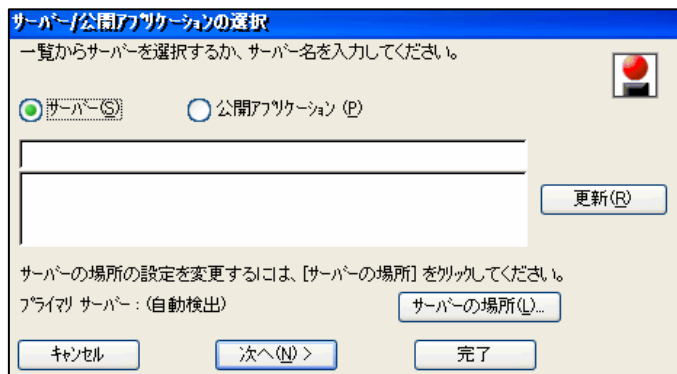
MetaFrame サーバーの検索中...

ネットワーク上で見つかったすべての Citrix サーバーは次のダイアログボックスに表示します。

Citrix サーバーが 1 つも見つからない場合は、ダイアログボックスのみを表示します。

3.1.1 サーバー / 公開アプリケーションの選択

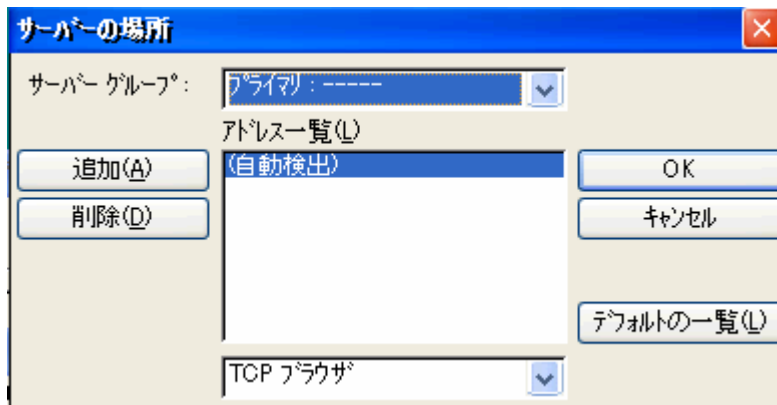
[サーバー / 公開アプリケーションの選択] ダイアログボックス



「サーバー(S)」を選択し特定の Citrix サーバーの Windows デスクトップを接続すると、デスクトップにあるどのアプリケーションも実行することができます。「公開アプリケーション(P)」を選択した場合、リモートユーザが実行可能なアプリケーションを表示します。接続すると、指定したアプリケーションが使用できます。スクロールリストからサーバーまたはアプリケーションを選択するか、またはテキスト入力欄に入力します。スクロールリストの更新を行う場合は [更新(R)] をクリックします。ローカルネットワーク上にサーバーに接続するには、[サーバーの場所(L)] をクリックしてサーバー場所の設定を変更します。

3.1.2 サーバーの場所

[サーバーの場所] ダイアログボックス



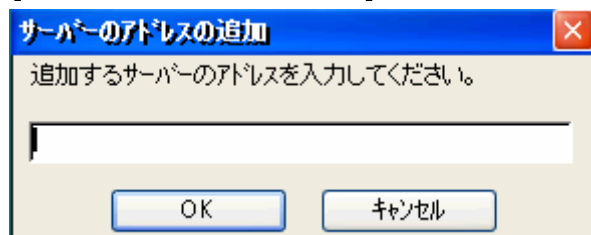
サーバーグループ:

設定したいグループを選択します。現在のグループと違うグループを設定するには、サーバーグループを選択します。プライマリグループ、第1 バックアップグループ (バックアップ1)、第2 バックアップグループ (バックアップ2) を設定できます。

追加(A):

サーバーを選択したグループに追加します。

[サーバーのアドレスの追加] ダイアログボックス



新たなCitrixサーバーの名前またはそのIPアドレスを入力します。

削除(D):

アドレス一覧の選択したサーバーを削除します。

ネットワークプロトコル:

ネットワークプロトコルを設定すると、クライアントがCitrixサーバーを検索する方法を制御できます。設定できるネットワークプロトコルは、次のとおりです。

• TCPブラウザ:

クライアントは、UDP プロトコルを使用してCitrixサーバーを検索し、TCP 上のICA プロトコルを使用してそのCitrixサーバーと通信します。UDP プロトコルを維持するには、サーバーの関連オプションが有効になっている必要があります。詳しくは、Citrix社の『Citrix Presentation Server 管理者ガイド』を参照してください。

• **TCP + HTTPブラウザ :**

クライアントは、HTTP プロトコルを使用してCitrix サーバーを検索し、TCP 上のICA プロトコルを使用してそのCitrix サーバーと通信します。インターネット経由またはファイアウォールやプロキシサーバーを介してクライアントを使用する場合に、このオプションを選択します。これはデフォルトのプロトコルです。

• **SSL/TLS+HTTPSブラウザ :**

クライアントは、HTTPS プロトコルを使用してCitrix サーバーを検索します。この方法では、CitrixクライアントはSSLまたはTLSを使ったICAコネクションでCitrixサーバーと通信し、ICAトラフィックとCitrix サーバーの認証情報を強力に暗号化します。インターネット経由またはファイアウォールやプロキシサーバーを介してクライアントを使用する場合に、このオプションを選択します。SSL またはTLS の設定方法については、「SSL/TLS を使用する場合」(3-1-9)を参照してください。

OKを選択して[サーバー / 公開アプリケーション]の選択画面に戻ります。

サーバーもしくは公開アプリケーションを選択したら、[次へ(N)>]を選択して続けます。

3.1.3 ICAコネクション名の指定

[ICA コネクション名の指定] ダイアログボックス

ICA コネクション名を指定してください。このコネクション名は、アプリケーションウィンドウのタイトルバーに表示され、接続マネージャで表示されるコネクション名としても使用されます。

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

任意の ICA コネクション名を入力し、[次へ(N)>]もしくは[完了]を選択します。
[完了]を選択した場合は、新たな接続がターミナルマネジャーに追加されます。
[次へ(N)>]を選択した場合は、[アプリケーションの指定]の設定画面が表示されます。

3.1.4 アプリケーションの指定

[アプリケーションの指定] ダイアログボックス

コマンドライン:

作業ディレクトリ:

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

利用するアプリケーションのコマンドラインとディレクトリを入力します。
[次へ(N)>]、もしくは[完了]を選択します。
[完了]を選択した場合は、新たな接続がターミナルマネジャーに追加されます。
[次へ(N)>]を選択した場合は、[ログオン情報の指定]の設定画面が表示されます。

3.1.5 ログオン情報の指定

[ログオン情報の指定] ダイアログボックス

必要に応じて、リモート アプリケーションに接続するためのログオン情報を指定できます。

ユーザー名: _____

パスワード: _____

ドメイン: _____

スマート カード ログオンを有効にする

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

必要に応じてアプリケーションへの接続のユーザ名、パスワードおよびドメインを入力します。
『スマートカードログオンを有効にする』にチェックをするとスマートログオンカードが有効になります。
[次へ(N)>]、もしくは[完了]を選択します。
[完了]を選択した場合は、新たな接続がターミナルマネジャー に追加されます。
[次へ(N)>]を選択した場合は、[ウィンドウのオプションの選択]の設定画面が表示されます。

3.1.6 ウィンドウのオプションの選択

[ウィンドウのオプションの選択] ダイアログボックス

ここでは、クライアント デバイスの画面に、どのようにアプリケーション ウィンドウを表示するかを指定します。

ウィンドウの色数

16色 256色 High Color True Color

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了

ウィンドウの色数を 16 色、256 色、High Color または True Color を選択します。
[次へ(N)>]、もしくは[完了]を選択します。
[完了]を選択した場合は、新たな接続がターミナルマネジャー に追加されます。
[次へ(N)>]を選択した場合は、[圧縮、暗号化、サウンドのサポート]の設定画面が表示されます。

3.1.7 圧縮、暗号化、サウンドのサポート

[圧縮、暗号化、サウンドのサポート] ダイアログボックス

以下の機能を有効または無効にします。

データ圧縮：

ICA クライアントと Citrix サーバー間の転送データ量を抑えます。

接続に使用する帯域幅に制限がある場合は、データ圧縮を使用するとパフォーマンスが向上します。クライアントデバイスが高速 LAN 上にある場合は、データ圧縮を指定する必要はありません。十分な帯域幅がある場合は、このチェックボックスをオフにしてください。Citrix サーバーへの負荷が軽減されます。

サウンドのサポート：

サウンド機能を有効にするには、[サウンドのサポート] チェックボックスをオンにします。
[音質] ボックスの一覧から、次のいずれかの音質レベルを選択します。

- ・高： 接続の帯域幅に余裕があり、高い音質が必要な場合のみ選択してください。クライアントデバイスで、元のサウンドと同じデータレートでサウンドファイルを再生できます。最高の再生音質を得るには、約 1.3 Mbps の帯域幅が必要です。転送されるデータ量が多いので、サーバーの CPU の使用率が高くなり、ネットワークが輻輳する場合があります。
- ・中： ほとんどの LAN 接続に適しています。クライアントに送られるサウンドはすべて最高 64 Kbps までに圧縮されます。そのため、クライアントデバイスでの再生音質が若干低下しますが、転送されるデータ量が少なくなるので、サーバーの CPU の使用率が圧縮しない場合よりも低くなります。
- ・低： ほとんどのモデム接続など、帯域幅が狭い接続に適しています。サウンドはすべて最高 16 Kbps までに圧縮されてクライアントデバイスに送られます。そのため、再生音質がかなり低下します。CPU 使用率は「中」に設定した場合と変わりませんが、転送されるデータ量が少なくなるので、帯域幅の狭い接続でも適度なパフォーマンスが得られます。

セッション画面の保持を有効にする：

この機能を有効にすると、クライアントセッションでの作業中にネットワークから切断された場合に、ユーザのセッションでの作業画面が保持されます。ユーザは、ネットワークが再接続されたときに、中断されていた作業をそのまま続行できます。この機能は、ワイヤレス

接続を使用するモバイルユーザにとって特に有用です。たとえば、ワイヤレス接続でのセッション中にトンネルや障害物などの影響で接続に障害が生じた場合、トンネルから出るなどして再接続されるまで、クライアントデバイス上の画面表示が停止します。このとき、セッションウィンドウが閉じたりエラーメッセージが表示されたりする代わりに、バックグラウンドで再接続が試行され、ネットワーク接続が回復したときにユーザがセッションでの作業を再開できるようになります。有効にすると、ポート番号が指定できるようになります。

SpeedScreen 遅延 アクションを有効にする：

[オン]、[オフ]、または [自動] のいずれかの設定を選択します。SpeedScreen は、低速ネットワーク接続でのユーザの体感速度を向上します。

暗号化レベル：

暗号化を使用すると、ICA接続でセキュリティの高い通信が可能になります。ICAクライアントは、2種類の暗号化プロトコルをサポートします。

- ICA 暗号化は、強力な暗号化を使用してICA コネクションのセキュリティを保護します。このプロトコルを、TCP およびTCP+HTTP ネットワークプロトコルと組み合わせて使用できます。

- SSL/TLS は、強力な暗号化を使ってICA コネクションのプライバシーを保護すると同時に、サーバー認証に基づいた証明書により接続するサーバーが正しいものであることを保証します。

[暗号化レベル] ボックスの一覧で、使用する暗号化レベルを選択します。デフォルトのレベルは [基本] です。認証時だけ暗号化を使用する場合は、[128 ビット- ログオンのみ] を選択します。

重要：Citrixサーバーは、ここで指定したレベル以上の暗号化をサポートするように設定されている必要があります。たとえば、Citrixサーバーの設定が56 ビット接続の場合は、CitrixクライアントはRC5 56 ビットまたは128 ビットの暗号化で接続できます。

ディスクキャッシュ使用：

ビットマップなどの共通して使用されるグラフィックオブジェクトをクライアントのファイルシステム上のローカルキャッシュに保存します。帯域幅が狭い接続の場合は、このディスクキャッシュによりパフォーマンスを向上できます。

Windowsショートカットキー(Alt+Tabなど)の優先：

[全画面デスクトップのみ] [右側デスクトップ上] [追加デスクトップ上] から選択できます。

各設定が完了したら、[次へ(N)>]、もしくは [完了] を選択します。

[完了] を選択した場合は、新たな接続がターミナルマネジャー に追加されます。

[次へ(N)>] を選択した場合は、[ファイヤウォールの設定] の設定画面が表示されます。

3.1.8 ファイヤーウォールの設定

[ファイヤーウォールの設定] ダイアログボックス

ネットワークファイヤーウォールを使うと、通信先のアドレスとポート番号に基づいてパケットを許可または拒否することができます。プロキシサーバーを使用しているネットワークで、ファイヤーウォールの内側にあるCitrix サーバーに接続する場合は、プロキシサーバーを経由してCitrixサーバーに接続するように設定する必要があります。ネットワークファイヤーウォールを介してICAセッションを行う場合は、下記の設定に関する説明を参照してください。

プロキシ:

SOCKS

[プロキシ]から[SOCKS]を選択し、[プロキシのアドレス]にSOCKSサーバーのIPアドレスまたはDNS名を入力します。これらの情報が不明な場合は、セキュリティ管理者に問い合わせてください。デフォルトのSOCKSポート番号は1080ですが、変更可能です。

Secure(HTTPS)

[プロキシ]から[Secure(HTTPS)]を選択し、[プロキシのアドレス]にSecureプロキシサーバーのIPアドレスまたはDNS名を入力します。これらの情報が不明な場合は、セキュリティ管理者に問い合わせてください。デフォルトのプロキシサーバーのポート番号は1080ですが、変更可能です。

ファイヤーウォールを介した接続で代替アドレスを使用:

ネットワークアドレス変換を行うファイヤーウォールの場合は、マスタICAブラウザから戻される代替アドレスを使用するように設定する必要があります。この設定は、SOCKSまたはSecureプロキシサーバーを使用していない場合も必要です。

3.1.9 SSL/TLSを使用する場合

SSL または TLS を有効にするには、次の作業を行う必要があります。

- ・ Citrix サーバーが SSL または TLS をサポートしていること、または Citrix サーバーに Citrix SSL/TLS Relay サービスがインストールされていることを確認します。Citrix サーバーで SSL または TLS を設定する方法については、Citrix の『Citrix Presentation Server 管理者ガイド』を参照してください。
- ・ [サーバーの場所] ページで、ネットワークプロトコルを [SSL/TLS+HTTPS] に変更します。詳しくは、[サーバーの場所] (3.1.2) を参照してください。
- ・ Citrix SSL/TLS Relay が Citrix サーバーと同じコンピュータにインストールされていない場合や、443 以外のポートを使用するように設定されている場合は、Citrix SSL/TLS Relay のアドレスとポートを指定する必要があります。

SSL/TLS Relay

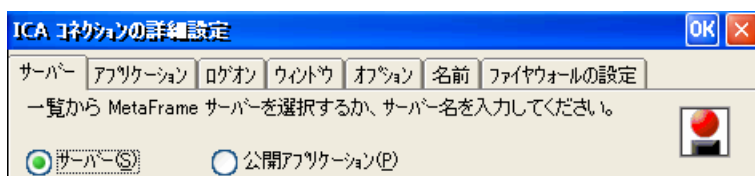
アドレスに Citrix SSL/TLS Relay の完全修飾ドメイン名 (FQDN : Fully Qualified Domain Name) を入力します。443 以外のポート番号を使用する場合はポート番号を入力します。)

[完了]を選択すると新たな接続がターミナルマネジャー に追加されます。

3.1.10 既存の接続を編集

既存の接続を編集すると、以下のダイアログを表示します。

[ICA コネクションの詳細設定] ダイアログボックス

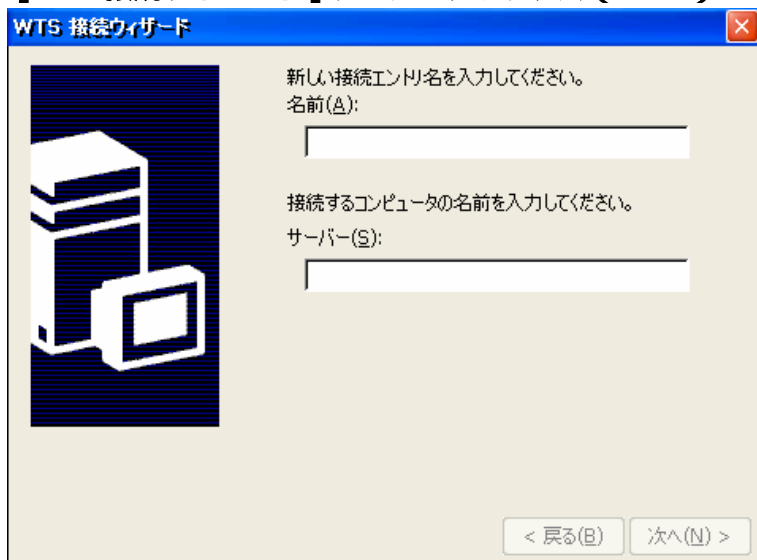


修正するプロパティタブをクリックします。

4章 RDP クライアント設定

マイクロソフト WTS (Windows Terminal Server) サーバーをご利用の場合、[新しい接続] ダイアログボックス内の Microsoft リモートデスクトップクライアント(RDP)接続を選択してください。以下の4つのダイアログボックスは順次表示され、RDP 接続の環境設定を行います。ウィザードを終了すると、新規の接続を [ターミナルマネージャー] ダイアログボックスの接続名リストに追加します。

[WTS 接続ウィザード] ダイアログボックス (その1)



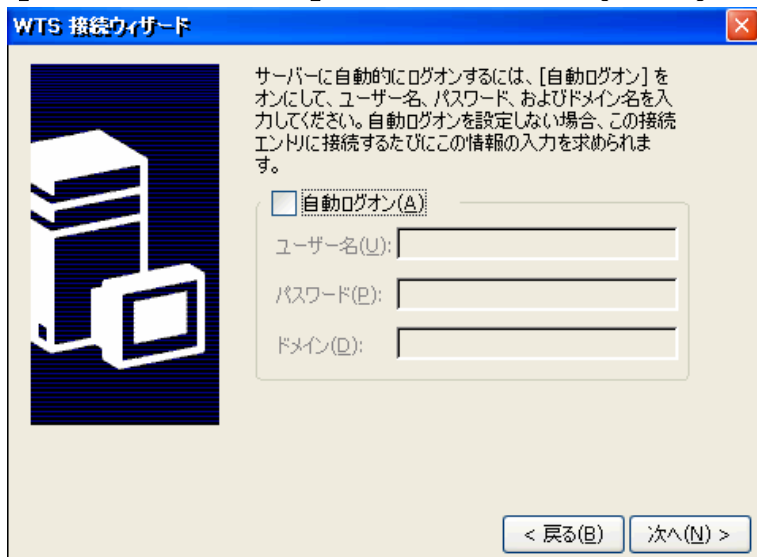
新しい接続エントリ名を入力してください。
名前(A):

接続するコンピュータの名前を入力してください。
サーバー(S):

< 戻る(B) 次へ(N) >

『名前(A)』に接続名を入力し、ユーザがこの RDP 接続を識別できるようにします。『サーバー(S)』にサーバーの名前または IP アドレスを入力します。[次へ(N)] をクリックして続けます。

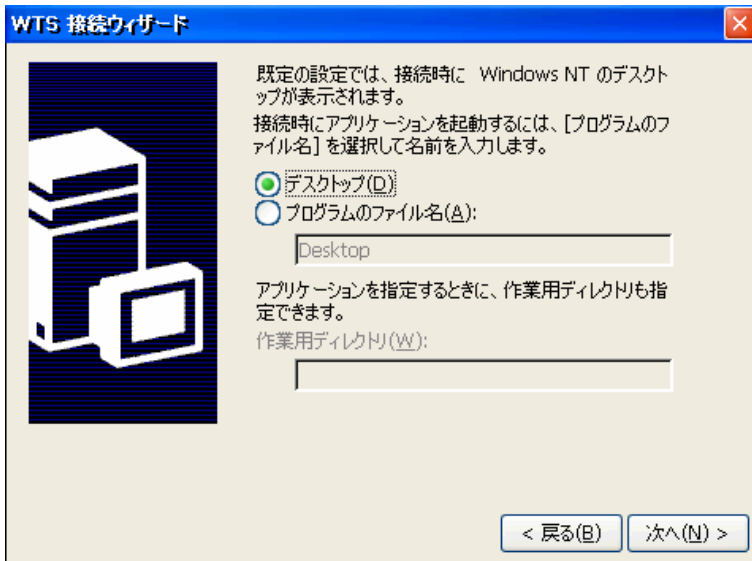
[WTS 接続ウィザード] ダイアログボックス (その2)



サーバーに自動的にログオンするには、[自動ログオン] をオンにして、ユーザー名、パスワード、およびドメイン名を入力してください。自動ログオンを設定しない場合、この接続エントリに接続するたびにこの情報の入力を求められます。
 自動ログオン(A):
ユーザー名(U): _____
パスワード(P): _____
ドメイン(D): _____
< 戻る(B) 次へ(N) >

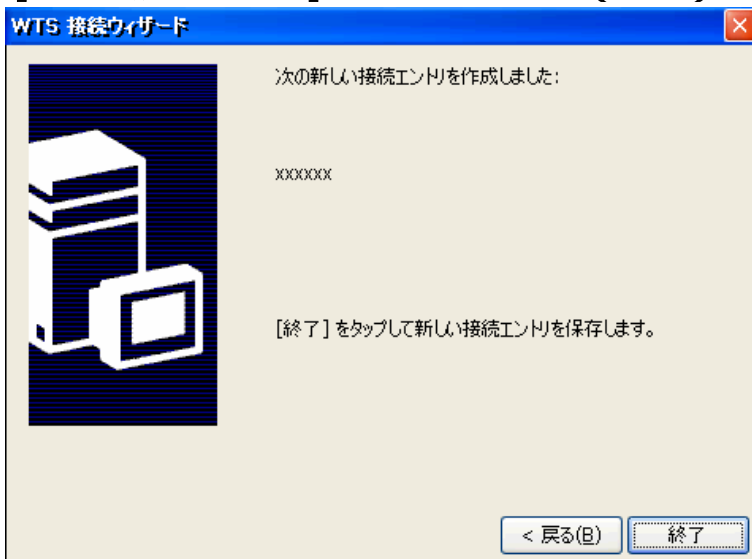
このダイアログボックスによりサーバーに自動的にログオンすることができます。『自動ログオン(A)』にチェックを入れてから、必要なすべての欄にその情報を入力します。[次へ(N)] をクリックして続けます。この手順を省略すると、RDP 接続を起動する度にログオン情報の入力を要求されます。

[WTS 接続ウィザード] ダイアログボックス (その3)



このダイアログボックスにより、RDP サーバーに接続した後、希望するアプリケーションに直接アクセスすることができます。初期値は『デスクトップ(D)』になっています。『プログラムのファイル名(A)』をクリックし、希望したアプリケーションの名前とその作業ディレクトリを入力します。[次へ(N)]をクリックして続けます。

[WTS 接続ウィザード] ダイアログボックス (その4)



「xxxxxx」は指定した既定の RDP 接続名です。[終了]をクリックし、この新たな接続を保存します。[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスでこの新たな RDP 接続がリストに表示されます。

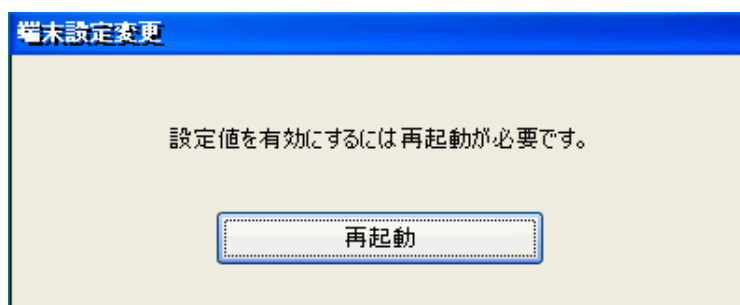
5章 端末設定

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックス画面でF2キーを押すと、端末の設定を変更することができます。[端末設定] ダイアログボックスはいくつものタブ(プロパティシート)で構成されています。表示するタブは選択するセキュリティ設定により異なる場合があります。希望するタブをクリックして表示します。

プロパティタブについては以下の項で説明しています。

[端末設定] ダイアログボックスで左上の[OK]ボタンをクリックすると、変更項目を有効にするために端末の再起動が要求する場合があります。その場合は以下のメッセージボックスを表示します。[再起動]をクリックして端末を再起動し、変更を有効にします。

[端末設定変更] ダイアログボックス



注意：再起動を省略するには左矢印キーを押します。

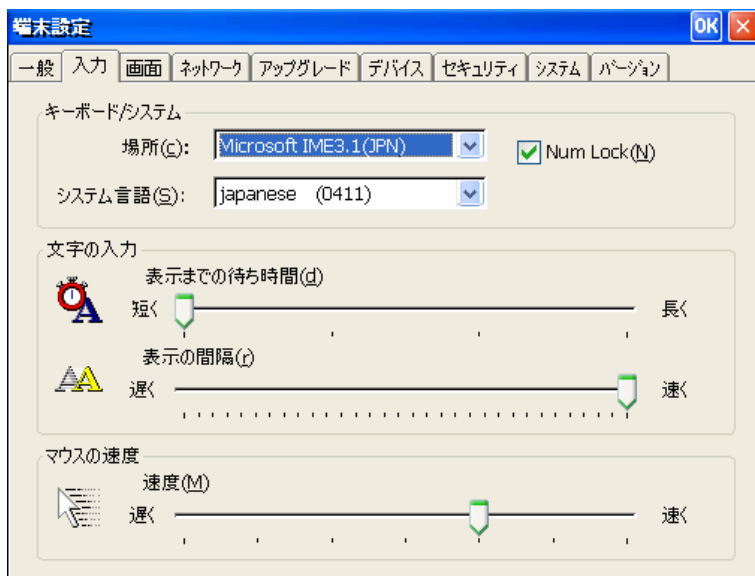
5.1 一般



「一般」タブは製品名等の情報や現在のソフトウェアに関する情報を表示します。

端末設定を工場出荷時の設定に戻すには、『工場出荷時の設定に戻す(R)』をチェックして[はい(Y)]をクリックします。

5.2 入力



場所(C) :

リストをスクロールし、キーボード種類を選択します。

システム言語(S) :

スクロールして、システム言語を選択します。

Num Lock(N) :

チェックを入れて、システム起動時キーボードの Num Lock を有効にします。

表示までの待ち時間(d) :

このスライドコントロールを使用し、キーを押し下げた時どれだけ速くリピートし始めるかを設定します。

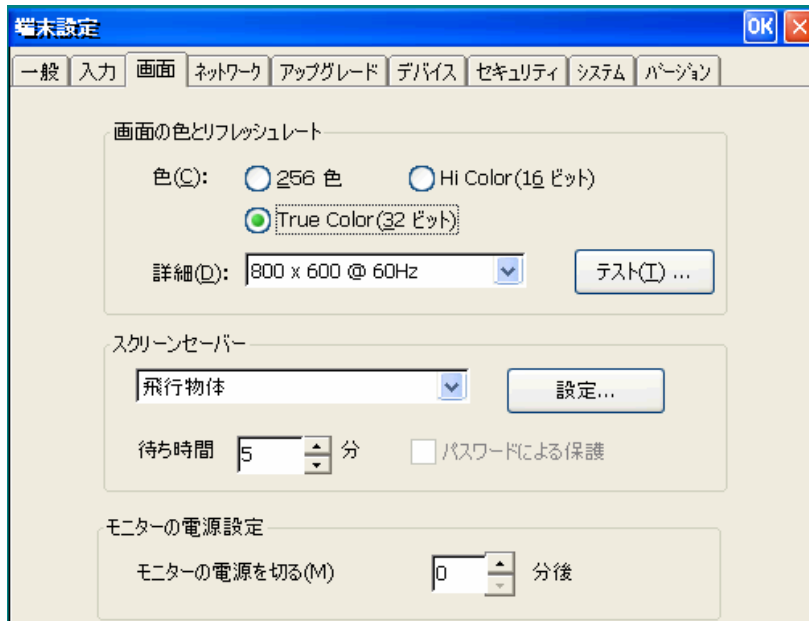
表示の間隔(r) :

このスライドコントロールを使用し、同じ文字が対応するキーを押し下げた時どれだけ速く表示するかを設定します。

速度(M) :

このスライドコントロールを使用し、マウスが画面上でどれだけ速く動くかを設定します。

5.3 画面



画面の色とリフレッシュレート：

色(C)：
画面の色を選択します。

詳細(D)：
スクロールリストは現在の端末表示解像度を表示します。スクロールし、1つの選択をクリックし解像度を変更します。デフォルトは 800 x 600 @60Hz です。
必ず [テスト(T)] (注1) をクリックして、選択した解像度がモニタで正常に機能することを確認してください。テスト画面は選択した設定を使用して 5 秒間表示します。

注1：*Secure Terminal T300E* では [テスト(e)] ボタンは使用できません。

スクリーンセーバーを有効にする(E)：

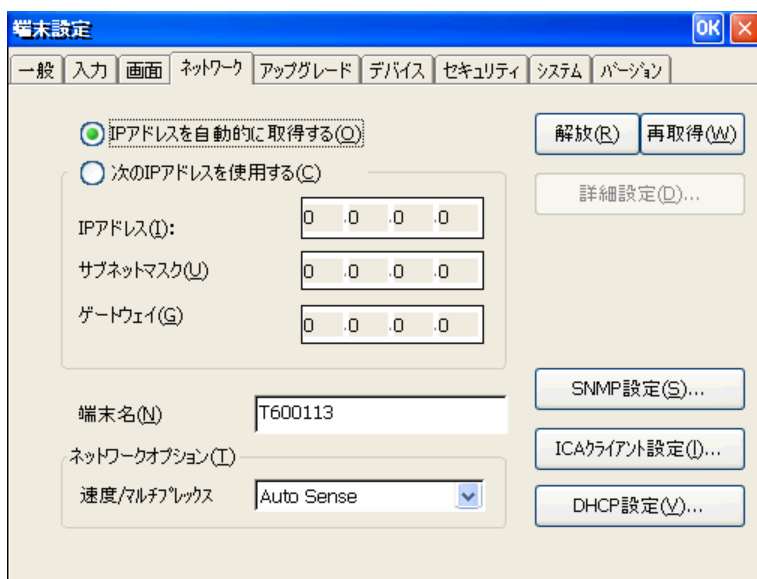
この設定をチェックするとスクリーンセーバーが有効になります。

待ち時間：
スクリーンセーバーが起動するまでの待ち時間(分単位)を設定します。直接数値入力するか、またはスクロールリストを使用することができます。

スクリーンセーバー：

スクリーンセーバーをリストから選択します。[設定] をクリックすると、選択したスクリーンセーバーの詳細設定が可能です。

5.4 ネットワーク



IP アドレスを自動的に取得する(O) :

このオプションをクリックし DHCP サーバーによる IP アドレス指定を有効にします。DHCP サーバーは自動的に IP アドレスやその他のパラメータを端末に割り当てて端末の環境設定を行います。[開放(R)] と [再取得(w)] はこの IP アドレスの開放および再取得に使用することができます – 本製品を別のサブネットに物理的に移動する際、または現在のサブネットの IP スキームが変更した時のみに使用します。

次の IP アドレスを使用する(C) :

『IP アドレス(I)』に静的 IP アドレスを入力します。『サブネットマスク(U)』と『ゲートウェイ(G)』に IP アドレスのサブネットマスクとゲートウェイを入力します。

端末名(N) :

RDP 接続または SNMP 管理で使用する名前です。DHCP (Option12 送信) がデバイス (クライアント) の識別をするために使用します。名前は自動的に生成され、頭文字に『T』がつき、さらに端末 MAC アドレスからの最後の 6 文字が続きます。

例えば MAC アドレスが『0050AC104712』ならば端末名は『T104712』となります。

ネットワークオプション(N) :

『速度 / マルチプレックス』のスクロールリストから適した通信速度を選択します。デフォルトは Auto Sense で、これは自動的にネットワーク速度を検出します。その他のオプションには 100Mbps Half Duplex、100Mbps Full Duplex、10Mbps Half Duplex、10Mbps Full Duplex があります。

5.4.1 詳細設定(D)...

このボタンは[次の IP アドレスを使用する(C)]を設定した場合にアクティブになります。
ボタンをクリックすると[ネットワーク詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。
[ネットワーク詳細設定] ダイアログボックス

ネットワーク詳細設定

DNSを使う(E)

デフォルトドメイン(D):

優先サーバーIP(P): 0 . 0 . 0 . 0

代替サーバー IP(S): 0 . 0 . 0 . 0

WINSを使う(W)

優先サーバーIP(m): 0 . 0 . 0 . 0

代替サーバー IP(c): 0 . 0 . 0 . 0

OK キャンセル

DNS を使う(E) :

このグループボックスは『デフォルトドメイン(D)』および『優先サーバーIP(P)』、『代替サーバーIP(S)』の設定に使用します。

WINS を使う(W) :

このグループボックスは WINS サーバーの『優先サーバーIP(m)』および『代替サーバーIP(c)』の設定に使用します。

5.4.2 DHCP 設定(V)...

ボタンをクリックすると[DHCP オプション] ダイアログボックスが表示されます。
[DHCP オプション] ダイアログボックス

DHCPオプション

一般 FTP RDP / ICA TN5250/3270 デフォルト

端末名(I) 143
自動デバイス名称用(DHCP オプション値 + Last IP)

キーボード(K) 140

システムソケット(S) 142

ブランチナンバー(B) 149

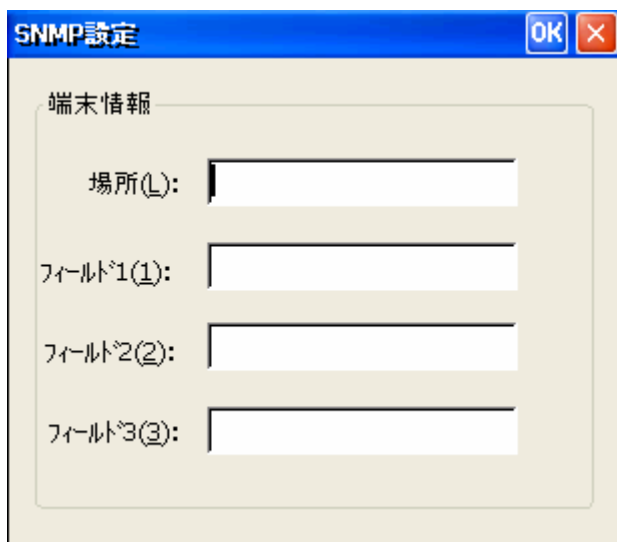
OK

DHCP オプションの設定は、DHCP の拡張機能に対する設定となります。
DHCP 拡張機能の設定は DHCP サーバー上での設定と連携を取って行う必要があります。
(この設定についての詳細は、当マニュアルには記述されません。詳細については、弊社営業担当者までお問い合わせください。)

5.4.3 SNMP 設定(S)...

ボタンをクリックすると[SNMP 設定] ダイアログボックスが表示されます。

[SNMP 設定] ダイアログボックス



The image shows a dialog box titled "SNMP設定" (SNMP Settings). The dialog has a blue title bar with "OK" and "X" buttons. The main content area is titled "端末情報" (Terminal Information) and contains four input fields:

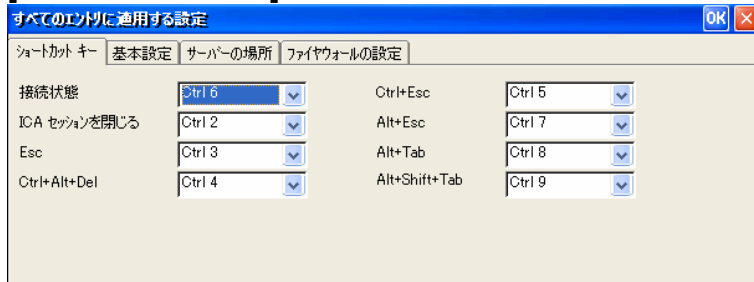
- 場所(L):
- フィルタ*1(1):
- フィルタ*2(2):
- フィルタ*3(3):

SNMP Administrator で内容を参照可能です。クライアントの設置場所やグループ名称等で管理する場合に文字情報を入力してください。

5.4.4 ICA クライアント設定(I)...

ボタンをクリックすると ICA (Citrix)設定の[すべてのエントリに適用する設定]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、すべての ICA 接続にて適用される設定を行います。以下の4つ（ショートカットキー、基本設定、サーバーの場所、ファイアウォールの設定）プロパティタブで構成されます。

[ショートカットキー] プロパティタブ



これは初期画面のショートカットキー設定画面です。初期値のショートカットキーをカスタマイズするには、プルダウンスクロールボックスを使います。以下にショートカットキーの機能を説明します。

接続状態：

ICA 接続状態を表示します。

ICA セッションを閉じる：

ICA WinCE クライアントを Citrix サーバーから切断し、ローカルデスクトップのクライアントウィンドウを閉じます。このショートカットキーを使用すると、Citrix サーバーとの接続が切断されても ICA セッションは終了しません。接続を切断したときに ICA セッションも終了するには、このショートカットキーを使用せずにログオフする必要があります。

ESC:

Windows CE デバイスで Esc キーを押した場合と同じです。

Alt + Ctrl + Del：

Citrix サーバーの [Windows のセキュリティ] ダイアログボックスを開きます。

Ctrl + Esc：

Citrix サーバーで、 [スタート] メニューを表示します。

Alt + Esc：

ICA セッション内で開いているアプリケーションを、起動した順番で切り替えます。

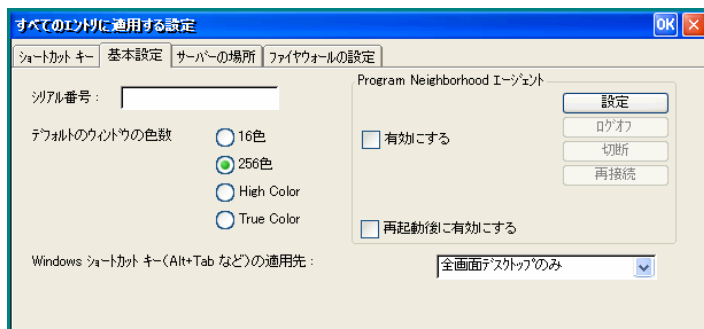
Alt + Tab：

ICA セッション内で開いているアプリケーションを、順番に切り替えます。このキーを押すとポップアップボックスが開き、アクティブにするプログラム名が表示されます。このボックスで選択したアプリケーションに、キーやマウスによる操作が適用されます。

Alt + Shift + Tab :

ICA セッション内で開いているアプリケーションを、Ctrl + 8 キーとは逆の順番で切り替えます。このショートカットキーで選択したアプリケーションに、キーやマウスによる操作が適用されます。

[基本設定] プロパティタブ



シリアル番号 :

ICA クライアントソフトウェアのシリアル番号です。WinFrameHost/Terminal (日本語版はリリースされていません) などの製品で ICA クライアントを使用する場合にのみ指定します。これらの製品でサーバーに接続するには、ICA クライアントごとに Citrix PC Client Pack のシリアル番号が必要になります。シリアル番号を入力するようにメッセージが表示された場合は、シリアル番号カードに記載されているとおり正確に入力してください。Citrix サーバーに接続する場合は、シリアル番号を入力する必要はありません。

デフォルトのウィンドウの色数 :

ICA セッションのウィンドウの色を、16 色、256 色、High Color、または True Color のいずれかから選択します。狭帯域幅の接続を使用する場合は、16 色モードの方が良好なパフォーマンスが得られます。クライアント側で設定した色数を超えた設定はできません。

Program Neighborhood エージェント :

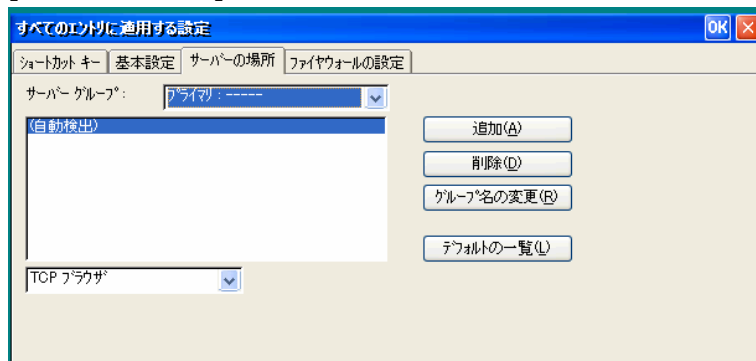
Program Neighborhood エージェントにより、Web ブラウザを使わずに Web Interface サーバーに接続して、複数のサーバーファームで公開中の使用が許可されているすべてのアプリケーションとコンテンツにアクセスできます。各アプリケーションに対する接続を手動で設定する必要はありません。また Program Neighborhood エージェントでは、シングルサインオンを実行できます。セッションの最初にアカウント情報を使ってログオンした後は、複数の異なるアプリケーションにアクセスする場合でも、セッション中にログオンアカウント情報を再度入力する必要はありません。Program Neighborhood エージェントを使ってサーバーの URL を更新し、ICA セッションの設定を指定できます。また、ユーザによるアクセスと変更を許可する ICA セッションの設定を指定できます。詳細については Citrix サーバーおよびクライアントのマニュアルを参照ください。

Windows ショートカットキー (Alt+Tab など) の適用先 :

Windows のショートカットキーを適用するデスクトップを次の中から選択します。

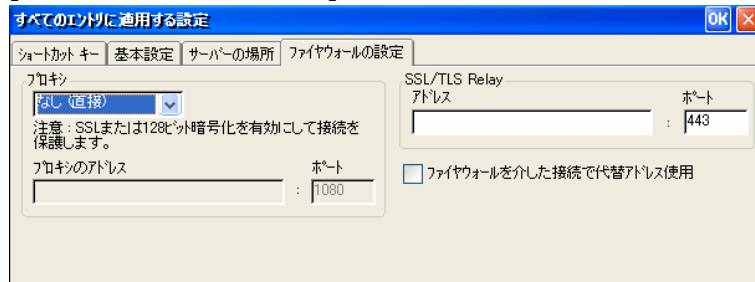
- 全画面デスクトップのみ
- リモートデスクトップ上
- ローカルデスクトップ上

[サーバーの場所] プロパティタブ



このダイアログボックスを使い利用可能な Citrix (ICA)サーバーおよび発行したアプリケーションを見つけます。詳細については、3章 ICA クライアント設定-ネットワーク接続-[サーバーの場所] (3.1.2) を参照してください。

[ファイアウォールの設定] プロパティタブ



このダイアログボックスを使い、ファイアウォールの設定を行います。詳細については、3章 ICAクライアント設定-ネットワーク接続-[ファイアウォールの設定] (3.1.8) を参照してください。

5.5 アップグレード

端末設定

一般 入力 画面 ネットワーク アップグレード デバイス セキュリティ システム バージョン

SNMPマネージャIP(S): 192 .168 .128 .65

手動更新(M)

FTPサーバー(E): 192 .168 .128 .250

パス名(P): T500E

ユーザ名(U): anonymous

パスワード(P): *****

アップグレード(g)

詳細手順については6章を参照してください。

手動更新(M) :

クリックして、FTPサーバーからファームウェアの手動更新のセットアップと開始を行います。FTPサーバーのIPアドレスおよび新規のファームウェアファイルが入っているファイルへのパスを入力します。FTPサーバーがユーザ名とパスワードを求めている場合は、それを入力してください。

[アップグレード(g)] をクリックして更新を開始します。

SNMP マネージャ IP(S) :

SNMP Administrator を使用して端末をリモート更新する場合は、このIPアドレスを設定するとアップグレードステータスを管理者にフィードバックします。これは必須ではありません。

5.6 デバイス



各デバイスの設定を変更する場合は、アイコンをダブルクリックします。

Aironet Client Utility :

現行のバージョンではこのデバイスはサポートされていません。

LPD : [5.6.1 参照]

接続したプリンタをネットワークプリンタとしてセットアップします。

MAGTEK MSR :

現行のバージョンではこのデバイスはサポートされていません。

NetCOM : [5.6.2 参照]

接続したシリアルデバイスをネットワークからアクセスできるようにセットアップします。

NetClock : [5.6.3 参照]

SNTP サーバーから時刻を受信し同一時刻にします。

Ping : [5.6.4 参照]

名前または IP アドレスでホストのネットワーク接続を確認します。

ThinPrint :

現行のバージョンではこのデバイスはサポートされていません。

Wince Vnc :

このデバイスは SNMP Administrator がこの端末を制御するために使用されます。

通常は設定変更の必要はありません。不用意に設定変更しますと SNMP Administrator から制御できなくなりますのでご注意ください。

eGalax TouchKit

現行のバージョンではこのデバイスはサポートされておりません。

インターネットオプション： [5.6.5 参照]

ブラウザオプションの設定を行います。

タッチスクリーン： [5.6.6 参照]

タッチスクリーンパネルをセットアップします。

ターミナルサーバーのクライアントライセンス：

Windows Terminal Server のクライアントライセンスを管理します。

ダイヤル：

ダイヤルのプロパティを設定します。

注：*Secure Terminal T300E* ではこの機能はサポートされません。

デスクトップ： [5.6.7 参照]

デスクトップの表示形態を設定します。

ネットワークとダイヤルアップ接続： [5.6.8 参照]

ネットワークおよびダイヤルアップ接続の設定を行います。

注：*Secure Terminal T300E* ではダイヤルアップ接続機能はサポートされません。

プリンタ：

ローカルプリンタをセットアップします。

ボリューム & サウンド： [5.6.9 参照]

端末スピーカの音量を設定します。

リモートディスプレイ： [5.6.10 参照]

SNMP Administrator がこの端末を制御できるようにします。

ワイヤレスネットワーク：

現行のバージョンではこのデバイスはサポートされておりません。

外字： [5.6.11 参照]

FTP サーバーより外字フォントファイルをダウンロードします。

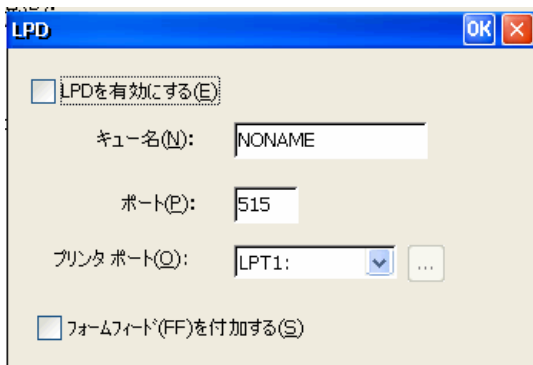
日付と時間： [5.6.12 参照]

現在時刻とタイムゾーンを調整します。

証明書：

ストアされている証明書を表示したり、証明書を新たにストアしたりします。

5.6.1 LPD



The LPD dialog box contains the following elements:

- LPDを有効にする(E)
- キュー名(N): NONAME
- ポート(P): 515
- プリンタポート(Q): LPT1: [dropdown] ...
- フォームフィード(F)を付加する(S)

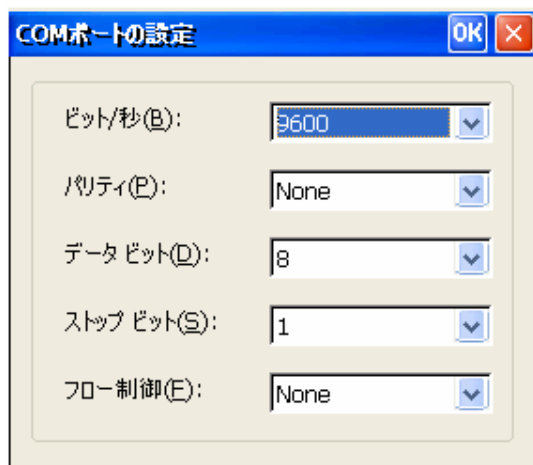
プリンタをパラレルプリンタポートに接続していれば、このプリンタをネットワークプリンタにすることができます。この場合本製品の IP アドレスおよびキュー名を与えられたとすると、ネットワーク上のデバイスから接続しているプリンタに出力することができます。

LPD プリンタを作成するには、『LPD を有効にする(E)』にチェックし、プリンタキュー名を入力します。LPD 印刷用の標準用ポートは 515 です。『フォームフィード(F)を付加する(S)』にチェックし、プリントジョブ間でフォームフィードを行います。これで本製品をネットワークプリントサーバーとして使用することができます。

また、『プリンタポート(O)』には、実際に使用するプリンタポートを『COM1:』『COM2:』『LPT1:』の中から選択します。

注： *SecureTerminal T300E* では『COM1:』『COM2:』はサポートされません。

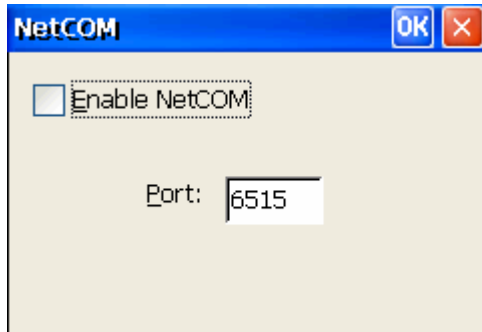
『COM1:』または『COM2:』ポートを使用する場合には、さらに下記の『COM ポートの設定:』を開き、ポートで使用するデータ構成の設定を行ってください。



The COMポートの設定 dialog box contains the following elements:

- ビット/秒(B): 9600 [dropdown]
- パリティ(P): None [dropdown]
- データビット(D): 8 [dropdown]
- ストップビット(S): 1 [dropdown]
- フロー制御(F): None [dropdown]

5.6.2 NetCOM



有効にすると、ネットワーク上の別のデバイス（TELNET 使用）が、本製品の COM ポートに接続している（ヌル・モデム・ケーブル）シリアルデバイス（例：HyperTerminal）と通信することができます。別デバイスから本製品の IP アドレスと Port 6515 を指定します。（例：OPEN 192.168.0.2 6515）

モードを設定して、Enter を押すと CRLF (改行コード)を送信します。

SerialD コマンド OPEN、WRITE、READ および CLOSE を以下に記載します。

1. OPEN [COM ポート、ボーレート、パリティ、データビット、ストップビット、ハンドシェイク]

COM ポート： COM1、COM2
ボーレート： 2400, 4800, 9600, 19200, 38400, 57600
パリティ： N (無し)、O (奇数)、E (偶数)、M (マーク)、S (スペース)
データビット： 5,6,7,8
ストップビット： 1,1.5,2
ハンドシェイク： N (無し、デフォルト)、X (Xon/Xoff)、H (RTS/CTS)
例：OPEN COM1,9600,N,8,1,N

2. WRITE 文字数<CRLF>n 文字列

例：WRITE 5<Enter>12345

3. READ

Return >=0、データがあれば

例：READ / 0 (データ無し)

READ / 5 / 12345

4. CLOSE

オープンしているポートを閉じる

すべての関数は戻り値を受け取る：

数値 0 なら、成功

数値 <0 なら、エラー発生

エラー番号リスト

Open:

- 1 ポート開放失敗
- 2 サーバ使用中
- 3 パラメータエラー
- 0 OK

Close:

- 4 ポートが OPEN されていない
- 0 OK

Write:

- 4 ポートが OPEN されていない
- 6 タイムアウト
- 0 OK

Read:

- 4 ポートが OPEN されていない
- n n文字読み取り

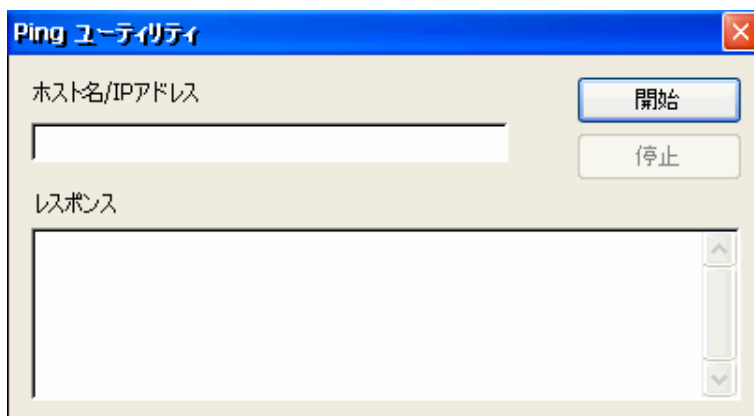
5.6.3 NetClock



SNTP サーバから時刻を受信します。この設定は、新たな SNTP サーバを追加したり、元々設定されている SNTP サーバの修正や削除をしたりする場合に使用します。

『起動時に時間同期する(B)』にチェックを入れ、装置のブート時に時刻を自動的に合わせます。今すぐ時刻を合わせたい場合は [同期(S)] をクリックします。

5.6.4 Ping



ホスト名または IP アドレスを入力しネットワークの接続を確認します。[開始]をクリックし、ホストのネットワークの接続を確認します。接続試験用のパケットがホストに送出されます。[停止]をクリックすると、このプロセスを終了します。

5.6.5 インターネットオプション



[全般] プロパティタブ

インターネット オプション

全般 接続 セキュリティ プライバシー 詳細設定 ポップアップ

スタートページ(S):

検索ページ(R):

ユーザー エージェント (ブラウザの再起動が必
要):

キャッシュ サイズ (KB 単位)

『スタートページ(S)』および『検索ページ(R)』を定義します。必要に応じて [キャッシュのクリア(A)] や [履歴のクリア(H)] を行います。キャッシュサイズも KB 単位で変更することができます。

[接続] プロパティタブ

インターネット オプション

全般 接続 セキュリティ プライバシー 詳細設定 ポップアップ

LAN を使用 (自動ダイヤルなし)(E) 自動ダイヤル名(A):

ネットワーク

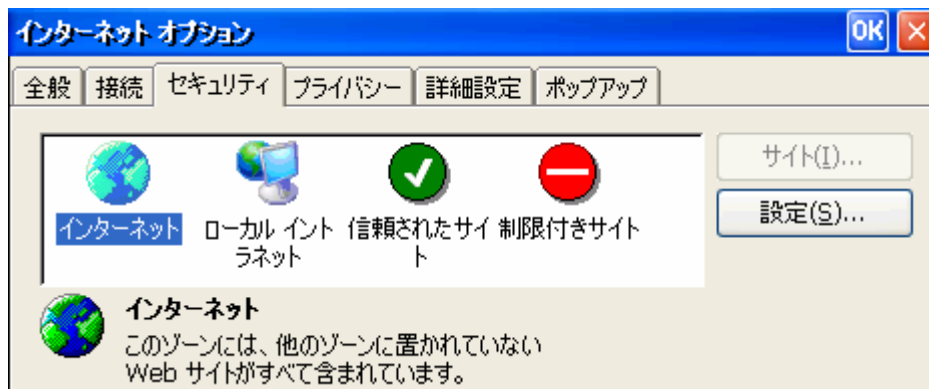
プロキシ サーバーを使用してインターネットにアクセスする(I)

アドレス(D): ポート(P):

ローカル アドレスにはプロキシ サーバーを使用しない(B)

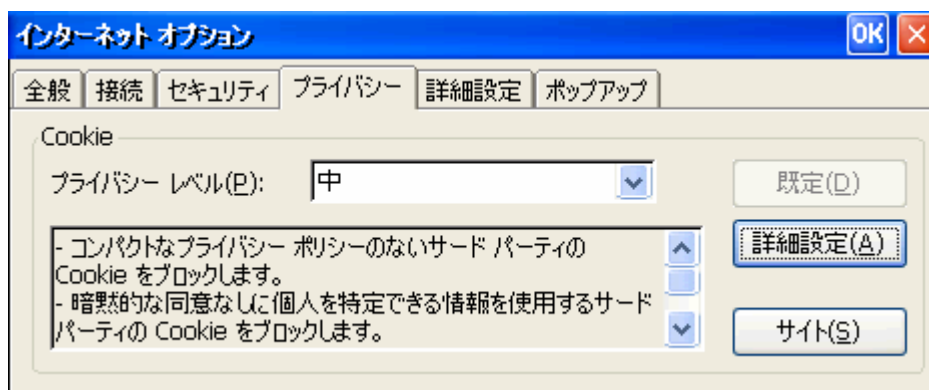
LAN 経由でインターネットを使用する場合、[LAN を使用(自動ダイヤルなし)(E)]のチェックボックスをチェックします。プロキシサーバーを使用している場合は、[プロキシサーバーを使用してインターネットにアクセスする(I)]のチェックボックスをチェックし、プロキシサーバーのアドレス (名前または IP アドレス) および使用しているポート番号を設定します。

[セキュリティ] プロパティタブ



セキュリティのオプションを選択します。

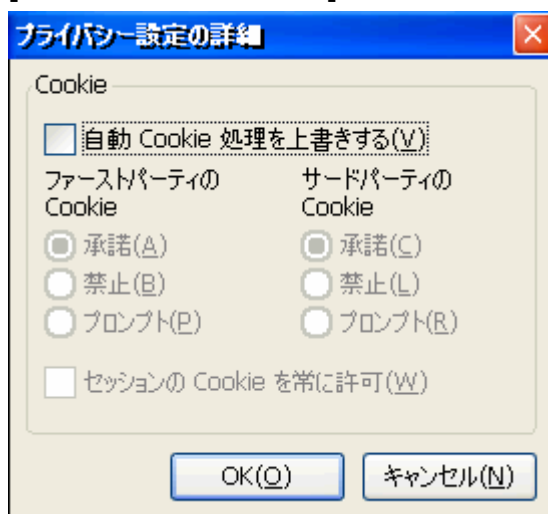
[プライバシー] プロパティタブ



プライバシーレベル (Cookie の取り扱いなど) の設定をします。

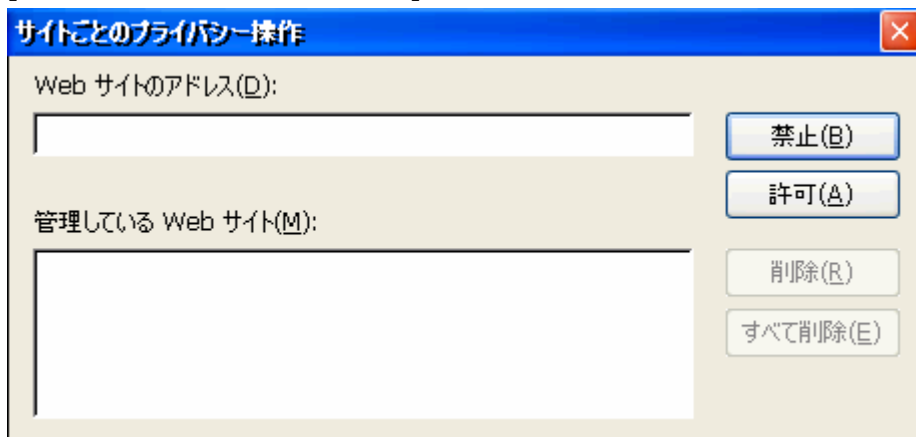
[詳細設定(A)] をクリックすると『プライバシー設定の詳細』ダイアログボックスを表示します。 [サイト(S)] をクリックすると『サイトごとのプライバシー操作』ダイアログボックスを表示します。

[プライバシー設定の詳細] ダイアログボックス



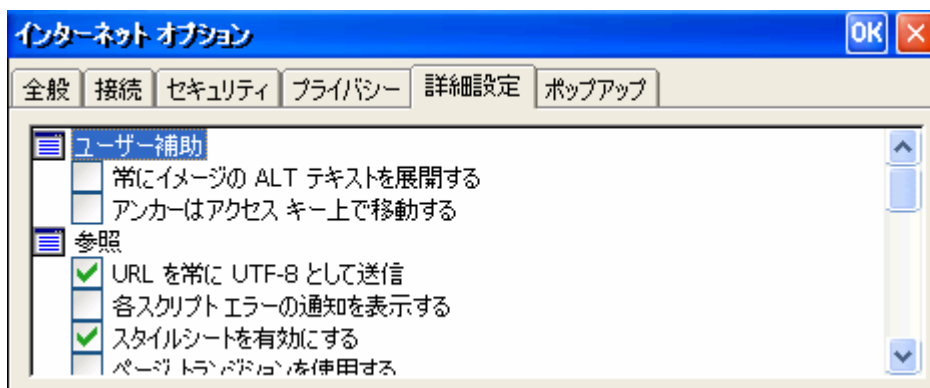
このダイアログで詳細なプライバシーレベルを設定できます。

[サイトごとのプライバシー操作] ダイアログボックス



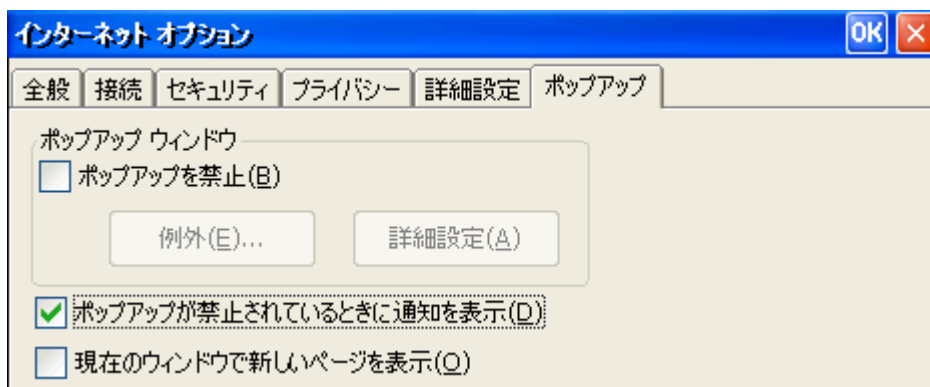
『Web サイトのアドレス(D)』に Web アドレスを記入し、[禁止(B)] および [許可(A)] をクリックします。管理されている Web サイトの一覧が 『管理している Web サイト(M)』に表示されます。

[詳細設定] プロパティタブ



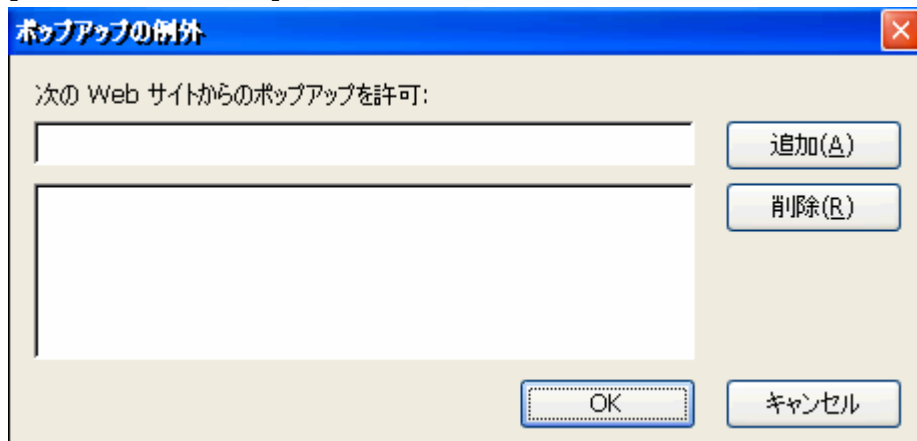
ユーザ補助、参照、マルチメディア、セキュリティなどの詳細項目を設定します。

[ポップアップ] プロパティタブ



『ポップアップを禁止(B)』にチェックすると、ポップアップウィンドウの表示を禁止します。
[例外(E)] を選択すると、[ポップアップの例外]ダイアログボックスが表示されます。 [詳細設定(A)] にて、[ポップアップの例外]ダイアログボックスが表示されます。

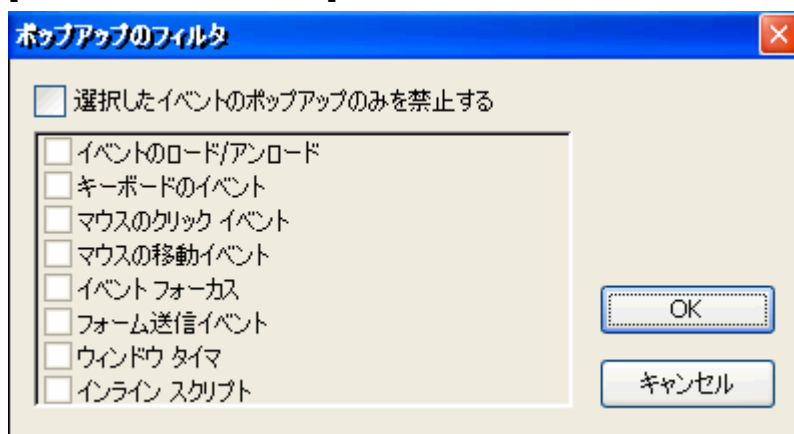
[ポップアップの例外] ダイアログボックス



ポップアップウィンドウを許可する Web サイトを設定します。

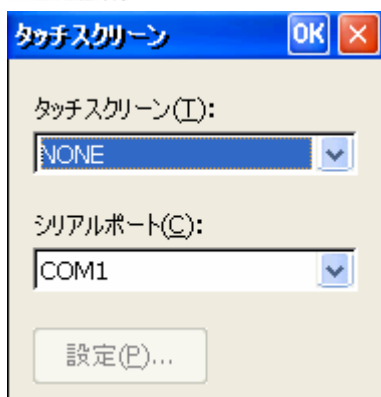
[次の Web サイトからのポップアップを許可]に Web アドレスを記入し、[追加(A)]をクリックするとリストに追加されます。追加された Web サイトを選択して、[削除(R)]をクリックするとリストから削除されます。

[ポップアップのフィルタ] ダイアログボックス



どのイベントのポップアップを禁止するか設定します。

5.6.6 タッチスクリーン



このダイアログにて、タッチスクリーンの設定を行います。

注意) タッチスクリーンの接続は本体とモニターの電源が OFF の状態で取り付けてください。

タッチパネルモニターには通常、3本のケーブル(電源、SVGAビデオ、シリアル:DB9ピンメス)あります。シリアルケーブルを本製品背面のCOMポート(DB9ピンオス)に接続してください。

設定するには、[ターミナルマネージャー]ダイアログボックスからF2キーを押し、『デバイス』タブをクリックしてから、タッチスクリーンアイコンをダブルクリックします。

タッチスクリーン(T) :

接続しているタッチスクリーンを選択します。タッチスクリーンが接続されていない場合は『NONE』を選択します。選択できるタッチスクリーンは、3M社製のMicro Touch Panel及びElo社製のSerial/USB Touch Screenです。

シリアルポート(C) :

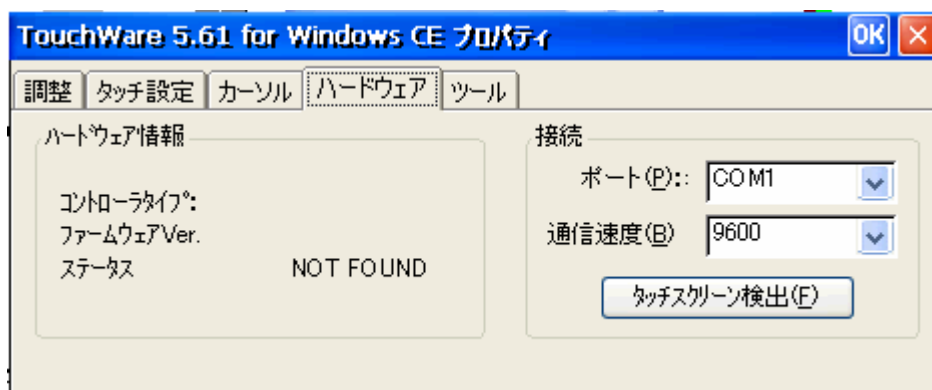
本製品に接続したシリアルポート(COM1 or COM2)を設定します。

設定(P) :

『タッチスクリーン(T)』でタッチスクリーンを選択すると有効になります。

タッチスクリーンが認識できない旨、エラーメッセージが表示された場合は、次項で説明する[TouchWare 5.61 for Windows CE プロパティ]のハードウェアタブから、接続した本体のシリアルポート(COM1 or COM2)を選択してください。

ハードウェア:



ハードウェア情報:

タッチパネルを正しく検出されるとステータスは"OK"になります。
ステータスが、"NOT FOUND"の場合は、[タッチスクリーン検出(F)]を押してみてください。
検出できない場合は、指定されたシリアルポートにシリアルケーブルが正しく接続できていないか、またはタッチパネルの問題が考えられます。

接続:

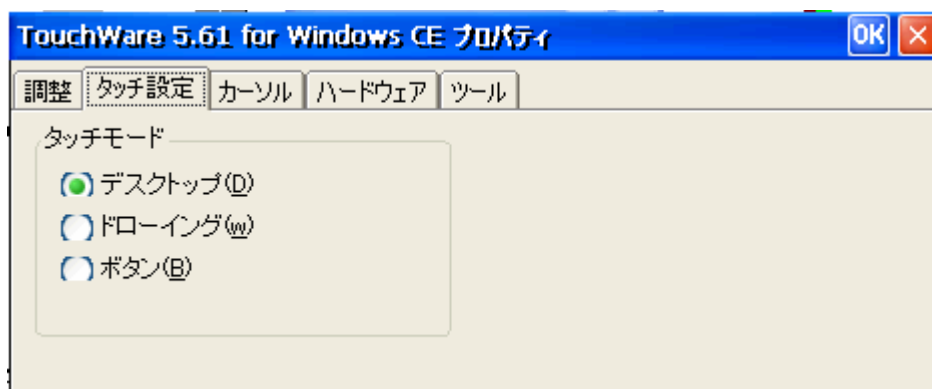
シリアルポートと通信速度を設定します。(これは通常変更不要です)

調整:



調整ボタンがアクティブ状態でクリックし、タッチ感度および画面範囲を調整することができます。調整するためにタッチする十字付きの画面が表示されるので、十字をタッチします。終わったら、Calibrate Complete 画面に現れる"Done"ボタンをタッチします。

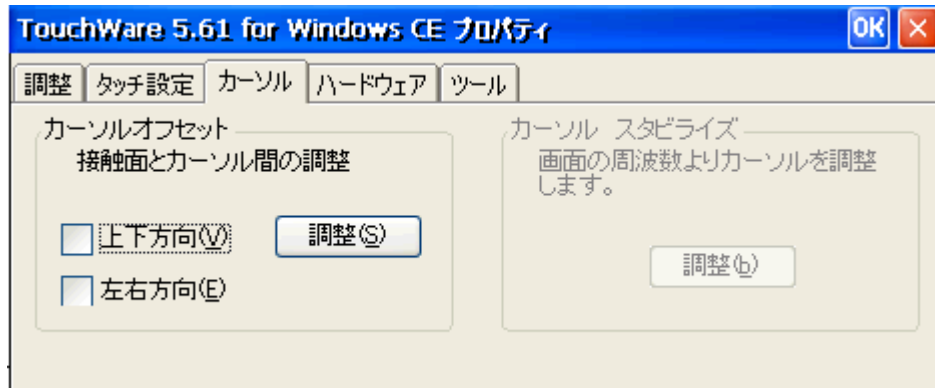
タッチ設定:



タッチモード:

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| デスクトップ | - ボタン押下有効およびドラック & ドロップ有効 (デフォルト) |
| ドローイング | - ボタン押下無効; ドラック & ドロップ有効 |
| ボタン | - ボタン押下有効; ドラック & ドロップ無効 |

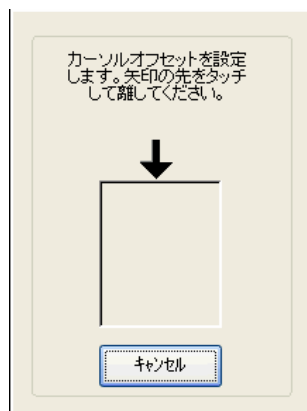
カーソル:



カーソルオフセット:

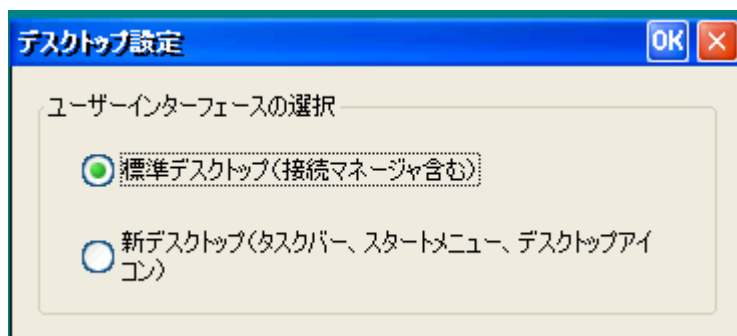
接触面とポインタ先端間の距離を設定することができます。

上下方向(V)および/または左右方向(E)を選択してから、調整(S)を押します。以下のダイアログにより上下方向オフセット (上端 = 無、下端 = 最大) および左右方向オフセット (中心 = 無) を選択することができます。



カーソル スタビライズ: この設定は使用しません。

5.6.7 デスクトップ

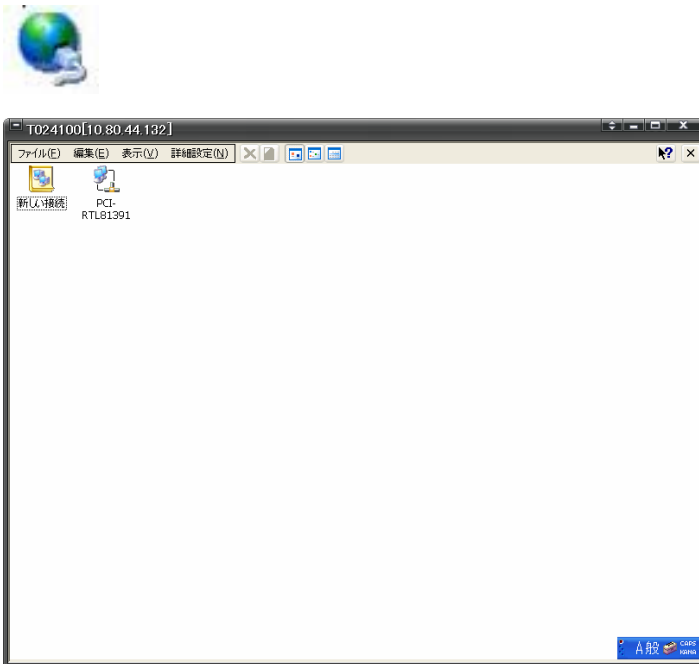


デスクトップの表示形態を設定します。

[標準デスクトップ(接続マネージャ含む)] を選択すると、WindowsCE 標準のデスクトップ画面となります。

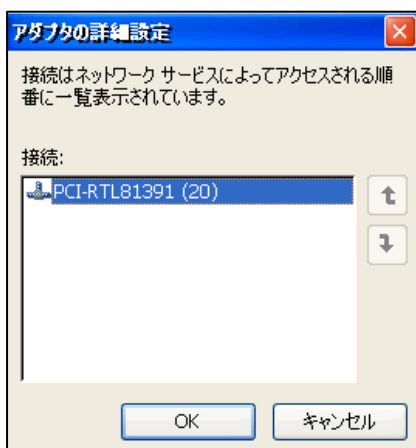
[新デスクトップ(タスクバー、スタートメニュー、デスクトップアイコン)] を選択すると、タスクバー、スタートメニュー、デスクトップアイコンなどが表示される一般の Windows に近いデスクトップ画面となります。

5.6.8 ネットワークとダイアルアップ接続



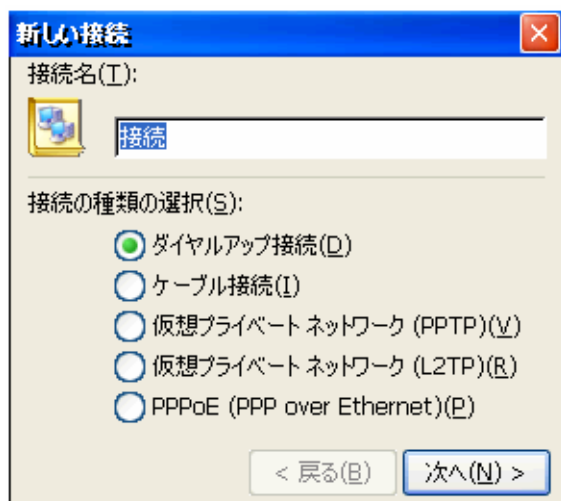
組み込まれたイーサネットネットワーク設定を見直す、または変更するには、PCI-RTL8139L と表示しているアイコンをダブルクリックします。

複数の接続が存在する場合は、[詳細設定(S)] メニューの下で [詳細設定(S)] を使い、その接続をネットワークサービスがアクセスする順序を設定することができます。



ネットワーク接続を新たに作成するには、『新しい接続』アイコンをダブルクリックします。

[新しい接続] ダイアログボックス



名前を入力し、接続タイプを選択します。

ダイヤルアップ接続 (D) :

PPP (Point to Point Protocol) を使用し、RAS (Remote Access Server) へのダイヤルアップ接続を確立します。

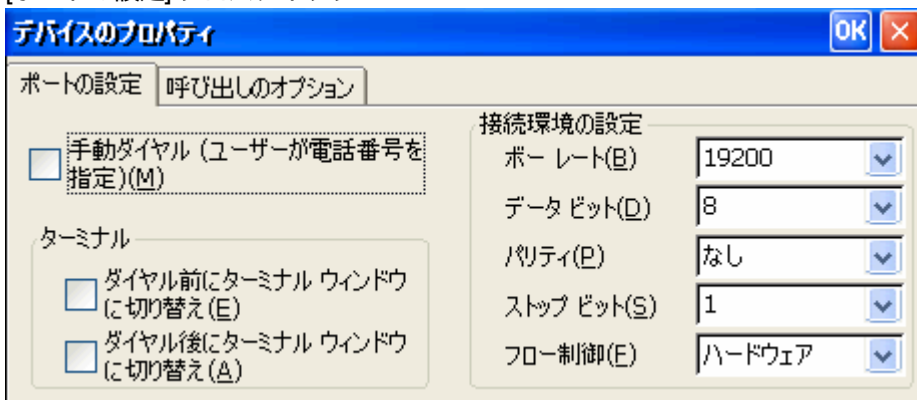
注 : *Secure Terminal T300E* ではダイヤルアップ接続機能はサポートされません。



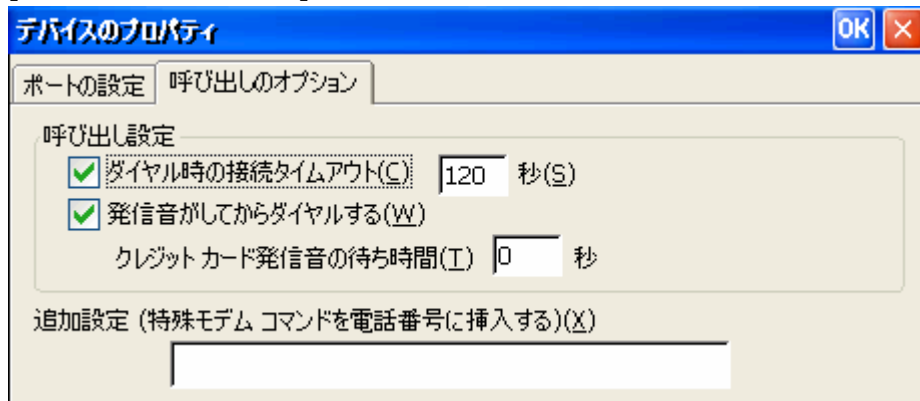
[デバイスのプロパティ] ダイアログボックス

[構成(C)...] をクリックすると、[デバイスのプロパティ]ダイアログボックスを表示します。

[ポートの設定] プロパティタブ



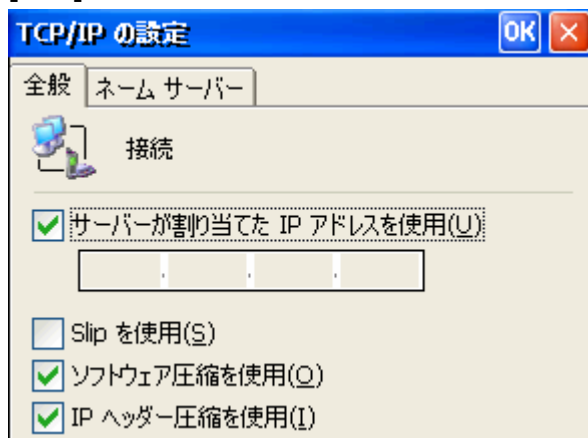
[呼び出しのオプション] プロパティタブ



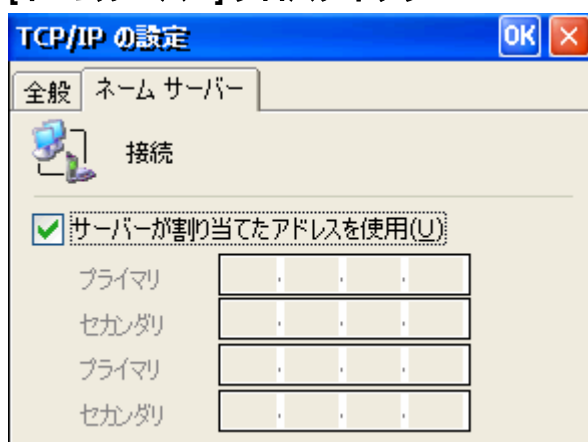
[TCP/IP の設定] ダイアログボックス

[TCP/IP の設定(T)...] をクリックすると、[TCP/IP の設定] ダイアログボックスを表示します。

[全般] プロパティタブ

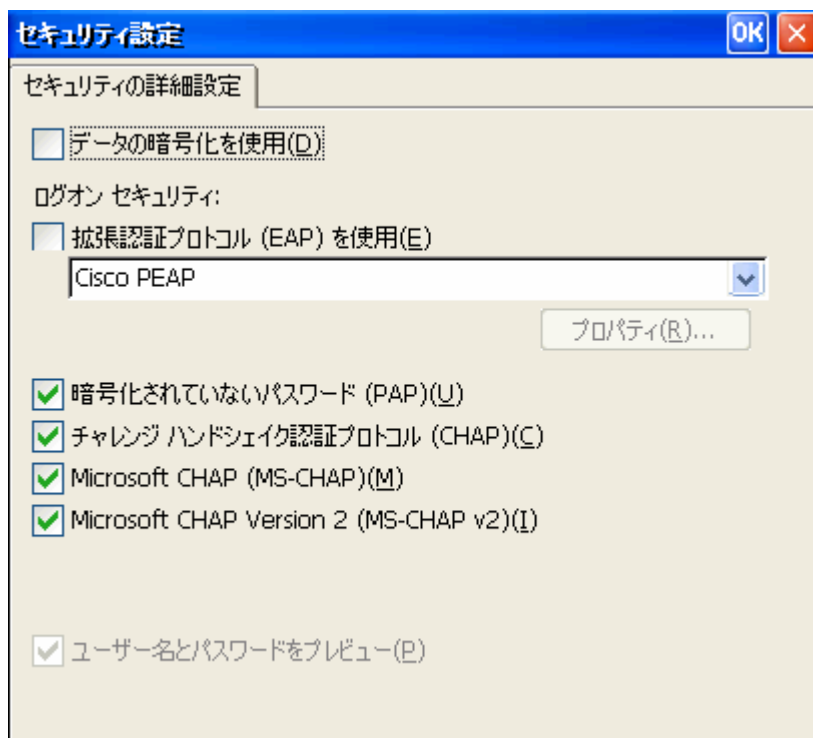


[ネームサーバー] プロパティタブ



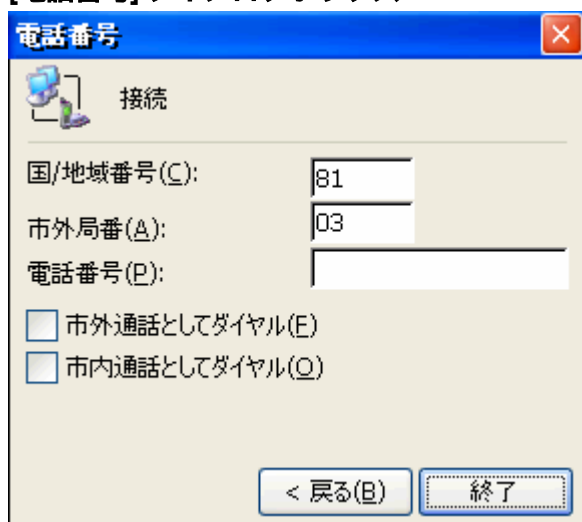
[セキュリティの設定] ダイアログボックス

[セキュリティの設定(E)...] をクリックすると、[セキュリティの設定]ダイアログボックスを表示します。



[次へ(N)]をクリックすると、[電話番号]ダイアログボックスが表示されます。

[電話番号] ダイアログボックス



電話番号を入力します。[終了]をクリックすると新しい接続が作成されます。

ケーブル接続 (I):

シリアルポート(COM1,COM2)を経由して他の PC とケーブル接続します。



[構成(C)...]、[TCP/IP の設定(T)...]、および[セキュリティの設定(E)...]の詳細については、ダイアルアップ接続(D)を参照してください。

仮想プライベートネットワーク(PPTP)(V):

VPN サーバーと PPTP を使用しての接続を作成します。

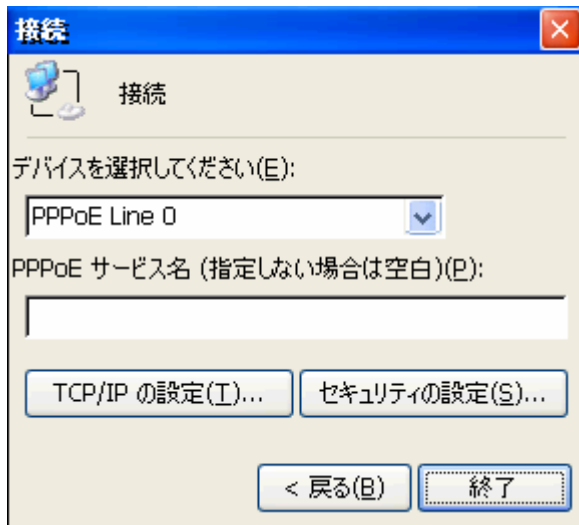


接続する VPN サーバーの名前または IP アドレスを入力します。

[TCP/IP の設定(T)...]、および[セキュリティの設定(E)...]の詳細については、ダイアルアップ接続 (D)を参照してください。

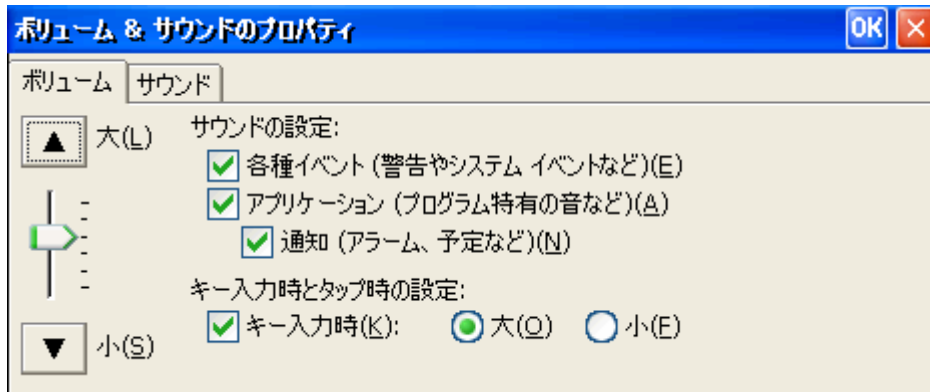
PPPoE (PPP over Ethernet) (P) :

PPPoE (PPP over Ethernet) を使用した接続を作成します。



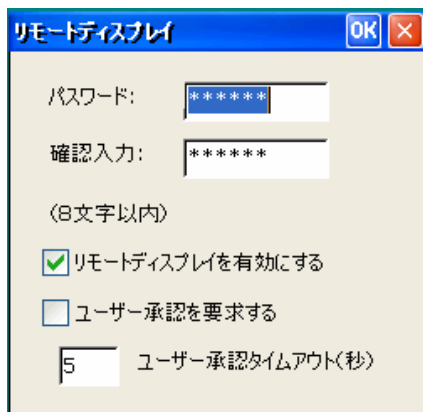
[TCP/IP の設定(T)...]、および[セキュリティの設定(E)...]の詳細については、ダイヤルアップ接続(D)を参照してください。

5.6.9 ボリュームとサウンド



このコントロールを使って端末スピーカの音量を設定します。上向きまたは下向き矢印ボタンをクリックして、『小(S)』から『大(L)』までの希望する音量レベルにポインタを合わせます。

5.6.10 リモートディスプレイ



リモートディスプレイ機能を使用すると、SNMP Administrator の画面上で端末の画面表示および操作がおこなえるようになります。

リモートディスプレイ設定では、この SNMP Administrator でのリモートディスプレイ画面の表示および操作に対する許可 (承認する・しない) を設定することができます。

パスワード (確認入力も含む) :

パスワードの設定は、リモートディスプレイ機能を使用する場合に有効となります。

パスワードの設定の際には『パスワード』と同じものを『確認入力』フィールドにも入れてください。

また、特にパスワードを設定しなくてもリモートディスプレイ機能を使用することができます。

リモートディスプレイを有効にする：

『リモートディスプレイを有効にする』にチェックを入れると、SNMP Administrator から端末を表示・操作することができます。

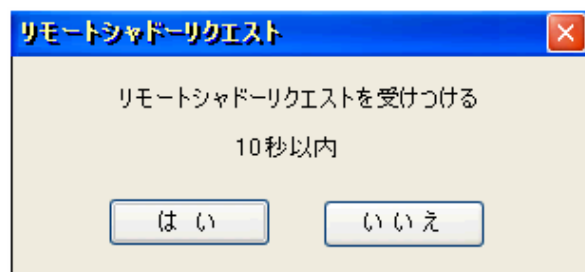
リモートディスプレイを有効にした場合には、さらに以下の付加機能の設定ができます。まず、上記画面でパスワードが設定されていると、SNMP Administrator 上でリモートディスプレイ機能を使用しようとする、SNMP Administrator 上にパスワード入力画面が表示されます。このときパスワードが正しい場合にのみ、リモートディスプレイが表示されます。パスワードが設定されていない場合には、SNMP Administrator 上でのリモートディスプレイ機能が常時使用可能となります。

また、リモートディスプレイ機能を有効にしたい場合には、このチェックをはずしてください。その場合には、パスワードや、『ユーザー承認を要求する』などの設定も無効となります。

ユーザー承認を要求する：

『ユーザー承認を要求する』を有効にするためには、パスワードの設定と『リモートディスプレイを有効にする』が共に設定されており、『ユーザー承認タイムアウト値』（秒数で1～9999秒まで設定可）も設定されている必要があります。

この場合には、SNMP Administrator 上でのリモートディスプレイ機能を使用しようとする、まず SNMP Administrator 画面上に、パスワード入力画面が表示されます。パスワードが正しい場合には、引き続きクライアントの画面上に、下記の『リモートシャドーリクエスト』を受けつけるかどうかの確認画面が表示されます。



この画面中の秒数が「0秒」にならないうちに『いいえ』ボタンをクリックすると、SNMP Administrator からのリモートディスプレイ要求が拒否され、SNMP Administrator 上ではリモートディスプレイ画面が表示されません。また、『はい』をクリックするか、画面がタイムアウトすると、SNMP Administrator 上でリモートディスプレイ画面が表示されます。

5.6.11 外字



このダイアログにて、外字フォントファイルをftpサーバーより、ダウンロードすることができます。ダウンロードされた外字ファイルは、IBM ホストエミュレータでのみ使用可能です。

サーバー：

外字フォントファイルが格納されているサーバー情報を入力します。
FTPサーバーのIPアドレスおよび、外字フォントファイルが格納されているファイルパスを入力します。FTPサーバーがユーザ名とパスワードを必要とする場合は、入力してください。

重要) Windows98/2000/XPの外字エディタにて外字を作成すると、通常はEUDC.TTEが作成されますので、拡張子をTTEからTTCに変更してFTPサーバーに格納してください。

ファイル名：

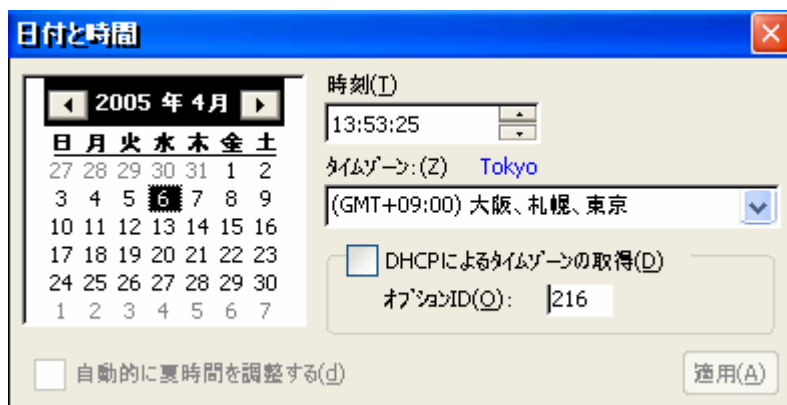
ユーザ指定を選択してください。(サーバー指定は通常使用しません)
外字フォントファイル名に、「EUDC.TTC」を入力してください。

ダウンロード：

FTPサーバーから外字フォントファイルをダウンロードします。

注意) 本製品を工場出荷値に戻すなど初期化した場合、再度外字ファイルをダウンロードする必要があります。

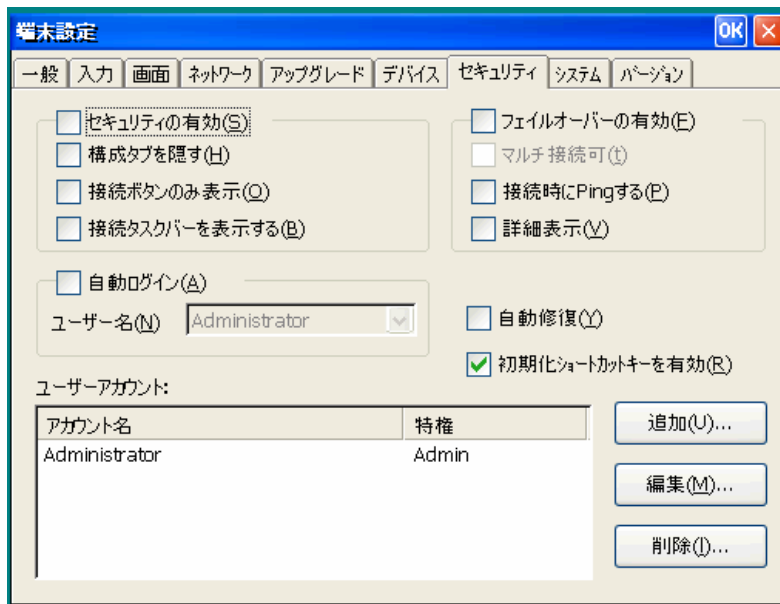
5.6.12 日付と時間



この画面により現在の時刻とタイムゾーンをセットすることができます。

『DHCPによるタイムゾーンの取得(D)』にチェックを入れると、DHCPが指定のDHCPオプション番号を使いタイムゾーンをセットすることができます。このオプションのタイプは'文字列'です。

5.7 セキュリティ



初期のセキュリティ設定時、ユーザーアカウント欄に必ず『Administrator』があります。この『Administrator』アカウントは管理者特権のものであり、削除することはできません。

セキュリティの有効(S) :

セキュリティ機能を有効にします。アカウント特権に基づいたマルチユーザ版になります。自動ログインを指定しない限り（下記参照）、ユーザーログインが要求されます。

注意）セキュリティが有効でない場合、Administrator にパスワードを設定しても、電源 ON 時に自動的に管理者モードで起動します。

構成タブを隠す(H) :

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックス内の構成タブを隠します。セキュリティを有効にすると、このチェックボックスは無効になります。構成タブは管理者としてログインしない限り隠されます。

接続ボタンのみ表示(O) :

接続ボタン（2.3.2.3 項参照）が [ターミナルマネージャー] ダイアログボックスの代わりに表示されます。ユーザは [ターミナルマネージャー] ダイアログボックスまたは設定画面にアクセスできません。ボタンをクリックすると、すべての接続（自動起動に設定していない接続を含む）が開始されます。シャットダウンする場合は、電源 SW を押してください。端末シャットダウン画面が表示され、10 秒後に自動的に端末の電源が OFF になります。

端末タスクバーを表示する(B) :

[ターミナルマネージャー] ダイアログボックスの代わりに端末タスクバー（2.3.2.4 項参照）を使用します。この設定は“接続ボタンのみ表示”と同時に設定できません。

自動ログイン(A) :

『ユーザー名(N)』リスト内で選択したユーザーアカウントで自動ログインします。但し、『セキュリティの有効(S)』を有効にしないと、自動ログインは機能しません。

追加(U) :

新たなユーザーアカウントを追加し、ユーザの特権、パスワードおよびアクセス可能な接続を設定します。

編集(M) :

選択したユーザのパスワード、特権およびアクセス可能な接続等のプロパティを修正します。

削除(I) :

選択したユーザーアカウントを削除します。削除確認メッセージボックスを表示します。

ユーザーアカウントの追加・編集 :

管理者は新しいユーザの追加および編集ができます。セキュリティ設定画面から、「追加(U)」を選択するとユーザ設定画面が表示されます。また、既存のユーザーアカウントを選択して、「編集(M)」にて編集できます。

アカウントの種類 :

管理者、ユーザおよびゲストの3つの特権レベルがあります。各ユーザの特権を下記表に記します。

	管理者	ユーザ	ゲスト
ターミナルマネージャーの構成を隠す / 表示する	隠す / 表示する	隠す	隠す
端末設定タブ			
一般	○	○ (リセット不可)	○ (リセット不可)
入力	○	○	○
画面	○	○	
ネットワーク	○		
アップグレード	○		
デバイス	○	○	
セキュリティ	○		
システム	○	○	○
バージョン	○	○	

ユーザー名(m) :

ユーザ名を入力します。

パスワード(P) :

パスワードを設定する場合は、パスワードを入力します。

パスワードの確認(f) :

パスワードを再度入力してください。

パスワード変更可 :

このチェックボックスを選択すると、ユーザはパスワードを変更できます。

アカウントの種類がユーザおよびゲストの場合に設定可能です。

パスワードの変更方法は本書の『2.3.2 端末起動モード - セキュリティログイン』を参照してください。

接続構成リスト

既に作成された接続構成が自動的にリストに表示されます。

許可された接続

ユーザに対して許可する接続を”接続構成リスト”から選択して、「許可(A)」を選択すると、「許可された接続」のリストに選択された接続構成が移動します。また、「許可された接続」のリストから接続構成を選択して「< 戻す(n)」を選択すると、接続構成リストに戻ります。管理者権限を与えられたユーザはすべての接続が許可されるため、個々の接続構成を許可する必要はありません。ユーザでログオンした場合、ここで許可された接続のみが、「ターミナルマネージャー」画面の接続タブに表示されます。

自動接続設定(o)

“許可された接続”リストから接続構成を選択して、「自動接続設定(o)」を選択すると、ユーザがログインした時に自動的に接続を起動します。また、自動接続設定された接続を選択して、このボタンを選択すると自動接続設定が解除されます。自動接続設定された接続は、「許可された接続」のリストの”自動接続”に”Yes”と表示されます。

ユーザー設定

パスワード変更可

ユーザー名(m): User

パスワード(P): ****

パスワードの確認(f): ****

アカウントの種類

管理者(A)

ユーザー(L)

ゲスト(G)

接続構成リスト

接続構成	タイプ
TNS250	EMU
THINSERVER	ICA

許可された接続

接続	タイプ	自動接続
Web接続	Web	Yes
WTS	RDP	Yes(デフォルト)

許可(A) >

< 戻す(n)

自動接続設定(o) >

OK

キャンセル

初期化ショートカットキーを有効(R) :

ターミナルマネージャーまたは接続画面で Ctrl + Tab + Delete + F12 キーの操作を有効にします。このキー操作を行うと『工場出荷時の設定の戻す』メッセージボックスを表示します。[はい(Y)] をクリックしてリセットするか、[いいえ(N)] をクリックして取り消します。

フェイルオーバーの有効(F) :

フェイルオーバーは、プライマリサーバーが故障または起動できない時に、自動的に別のサーバーに切り替えることによりネットワークアプリケーションを継続して利用できるように試みることです。たとえばフェイルオーバーが有効になっており、プライマリ RDP/ICA サーバーが故障すると、その接続は終了します。再接続時に、設定している別の RDP/ICA サーバーへの接続が自動的に試みられ、ユーザが継続して利用できるようにします。

ある接続が開始できない場合（手動または自動）、次の無効接続の開始が試みられます。順番は接続名によりアルファベット順になっています。すでに有効となっている接続は省略します。

接続に失敗し、フェイルオーバーが機能すると、『フェイルオーバー中です。しばらくお待ちください。』というメッセージを表示します。

マルチ接続可(t) : (フェイルオーバー)

複数のサーバーに対しフェイルオーバーを有効にします。プライマリ接続が失敗した場合は、接続が成功するか、または他のサーバーが利用できなくなるまで次のサーバー以降を試みます。有効でない場合は、新たな接続を一回のみ試みます。

接続時に Ping する(P) : (非フェイルオーバー)

接続開始に失敗した場合は、このボックスにチェックを入れてフェイルオーバー ログウィンドウを（下記参照）を表示します。

詳細表示(V) : (フェイルオーバー)

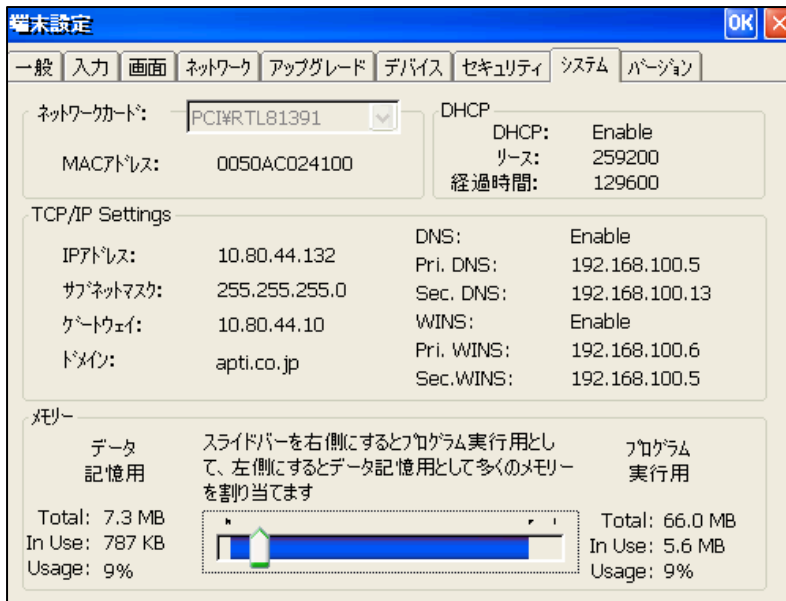
このボックスにチェックを入れると、メッセージがフェイルオーバー ログウィンドウにフェイルオーバー機能の失敗と成功について表示します。

フェイルオーバー ログウィンドウ

フェイルオーバー動作と応答を示します。

5.8 システム

このタブは本製品の環境設定を示します。



ネットワークカード：

選択したネットワークカードのイーサネット MAC アドレスを示します。

TCP/IP Settings：

これは以下に関するネットワーク状態を示します。

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、ドメイン、DNS (Enable(有効) / Disable(無効))、プライマリ DNS、セカンダリーDNS、WINS (Enable(有効) / Disable(無効))、プライマリ WINS、セカンダリー WINS

DHCP:

DHCP の有効(Enable)または無効(Disable)についての情報を示します。

メモリー：

プログラム実行用メモリーの割合を増やすと、より多くのセッションを実行することができます。データ記憶用メモリーの割合を増やすと、仮想ディスクのサイズを大きくすることができます。

5.9 バージョン



バージョンタブには端末に関する著作権情報やファームウェアバージョン（例：WBT-E5514J.9）を記載しています。このプロパティシートは情報提供用です。

6章 ファームウェアアップグレード

本製品はFTPサーバーより、新しいファームウェアをアップグレードすることができます。アップグレードには、端末のアップグレードタブから手動にて行う方法と SNMP Administrator から行う方法があります。また、適切な DHCP パラメータを設定しておけば、自動的に起動時にアップグレードすることもできます。

6.1 FTP サーバーの準備

フラッシュアップデート用のファームウェアをネットワーク上の FTP サーバーに格納する必要があります。ここでは、Microsoft インターネットインフォメーションサービス（以下 IIS）上で提供される FTP サイトを例に説明します。

- 1) サーバーの IIS サービスがインストールされており、FTP サービスが開始されていることを確認してください。
- 2) サーバー上の任意のディレクトリに新しいファームウェアファイル（複数のファイルに分割されており、ファイルの拡張子が 000-006”等の数値になっています）と情報ファイル (wcev550.dub)を配置してください。
- 3) Windows サーバーの管理ツールから、インターネットインフォメーションサービス(IIS)マネージャを起動します。既定の FTP サイトもしくは任意の FTP サイトを選択し、右クリックにて新規作成→仮想ディレクトリを選択します。仮想ディレクトリ作成ウィザードに従ってエイリアス名（ここで設定した名前が以降で説明するパス名になります。例：T500）および、ファームウェアを配置したディレクトリパスの関連付けなどを行ってください。

注意：FTP サイトが適切に設定できたかを確認するには、ブラウザから ftp://<FTP サーバーIP アドレス>/<エイリアス名>を入力してアクセスしてください。正しく設定できている場合は、上記で設定したファームウェアファイルが表示されます。

例) ftp://192.168.128.250/T500

Unix、Linux およびその他の（RFC 準拠）FTP サーバーも同様に対応しています。固有の FTP サーバーの環境設定を行う際には、それに付随するマニュアルを参照してください。

6.2 アップグレード手順

F2 キーを押し「アップグレード」タブをクリックして、[アップグレード] 設定画面を表示します。

[アップグレード] 設定画面

端末設定

一般 入力 画面 ネットワーク アップグレード デバイス セキュリティ システム バージョン

SNMPマネージャIP(S): 192.168.128.124

手動更新(M)

FTPサーバー(F): 192.168.128.250

パス名(P): T500

ユーザ名(U): APTi

パスワード(a): ****

アップグレード(g)

SNMP マネージャ IP(S) :

指定すると、SNMP Administrator (6.3 項参照) を実行している IP アドレスのデバイスにアップグレードステータス情報を送信します。

手動更新(M) :

アップグレードするための情報を入力します。

FTP サーバー(F) :

FTP サーバーの IP アドレス

パス名(P) :

FTP サーバルートからの新しいファームウェアが配置されているディレクトリパスを入力します。先に説明した IIS の例ではエイリアス名を入力します。(例: T500)

ユーザ名(U) :

FTP サーバーのセキュリティが要求する場合はユーザ名を入力します。不要の場合は空白にしておきます。

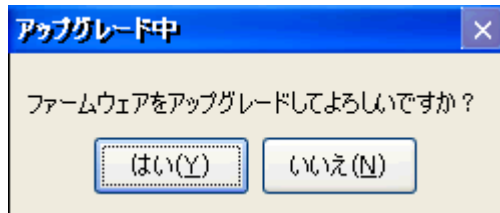
パスワード(a) :

FTP サーバーのセキュリティが要求する場合はパスワードを入力します。不要の場合は空白にしておきます。

[アップグレード(g)] をクリックして、アップデートを開始します。

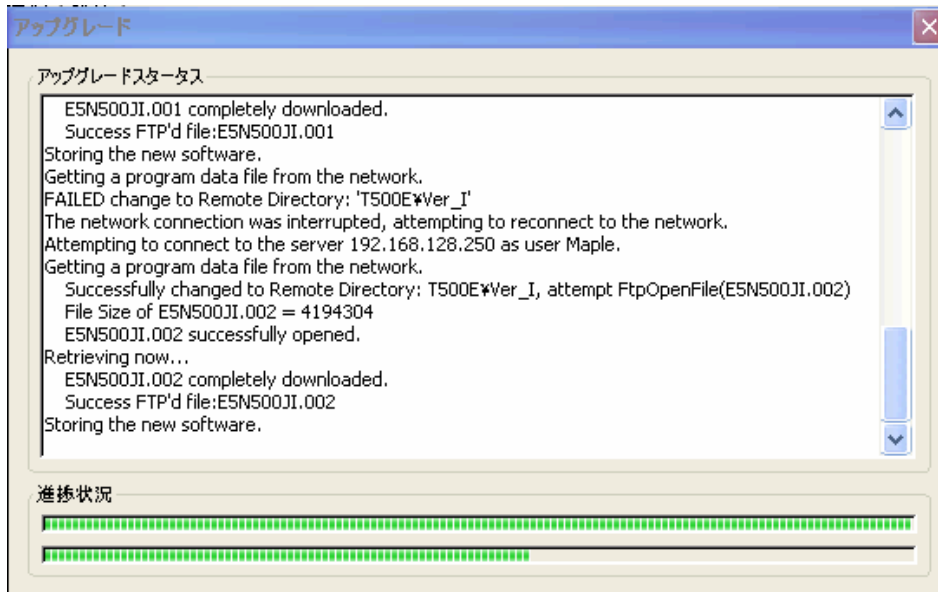
[アップグレード中] ダイアログボックス :

[アップグレード(g)] を選択すると、確認ダイアログボックスが表示されますので、[はい(Y)] を選択します。

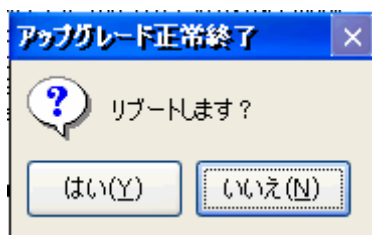


アップグレードステータス

アップグレード中は、アップグレードステータス画面が表示されます。



アップグレードが完了すると、端末は再起動要求します。再起動後に端末設定の一般タブ、もしくはバージョンタブにて指定したファームウェアバージョンに更新されていることを確認してください。



6.3 SNMP Administrator 手順

SNMP Administrator を使用するとリモートで個々の端末および一括でファームウェアをアップグレードすることができます。

SNMP Administrator でのアップグレードについては、SNMP Administrator ユーザーズガイドを参照してください。

Secure Terminal

Windows CE 版

ユーザーズ・ガイド V2.0.1

JBアドバンス・テクノロジー株式会社

Secure Terminal[®] についてのお問い合わせは下記の
窓口にご相談ください。

お客様相談センター

■電話相談窓口

受付時間 09:00-11:45 13:00-17:00

(日・祝日・12/30-1/4を除く)

0120-28-3933

■FAX相談窓口

受付時間 24時間

0120-28-3977
